定点把握疾病（五類感染症）の状況

※令和４(2022)年は 52 週、令和５(2023)年は 52 週での比較です。

定点当たり報告数の比較について

報告数を比較する際には、結核・感染症発生動向調査情報の月報における解析情報の表現と同様に、その比の値により、以下のような表現で記載します。

報告数の比の値

1.50 倍以上	大幅に高い水準
1.25～1.49 倍	かなり高い水準
1.10～1.24 倍	やや高い水準
0.90～1.09 倍	ほぼ同様の水準
0.75～0.89 倍	やや低い水準
0.50～0.74 倍	かなり低い水準
0.49 倍以下	大幅に低い水準

警報・注意報レベルの基準値

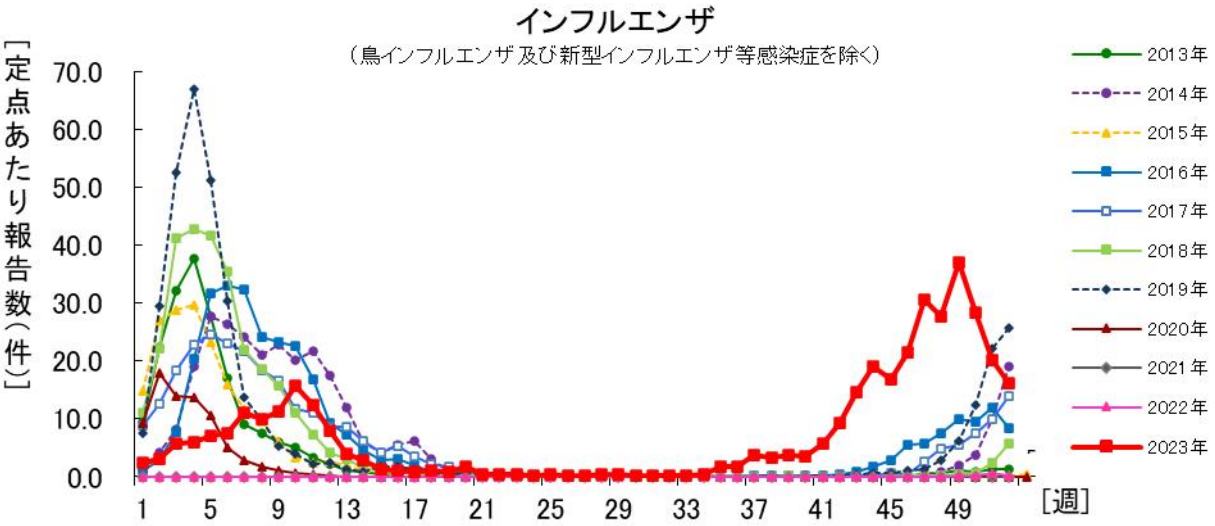
疾病名	警報		注意報
	開始基準	終息基準	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	―
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	―
感染性胃腸炎	20	12	―
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	―
伝染性紅斑	2	1	―
ヘルパンギーナ	6	2	―
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	―
流行性角結膜炎	8	4	―

1. インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

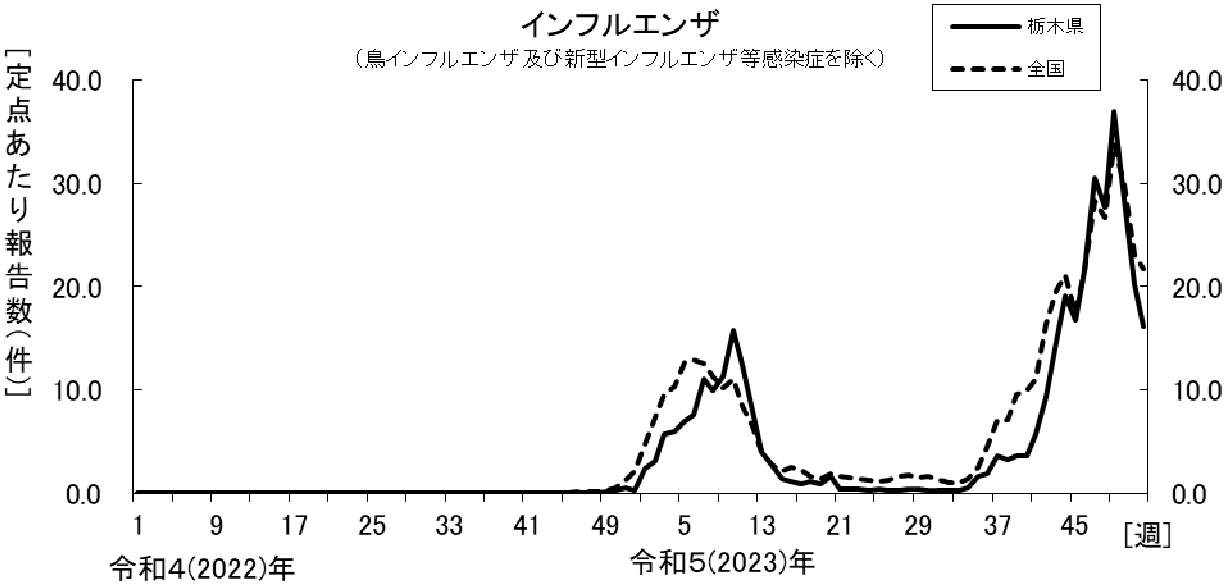
令和５(2023)年の総報告数は 29,231 件で、令和４(2022)年（120 件）と比較すると 243.59 倍と大幅に増加しました。22-23 シーズンは、第７週（２/13～２/19）に注意報レベルを超え、第 10 週（３/６～３/12）をピークとする報告数の増加が見られました。また、23-24 シーズンは例年よりも流行入りが早く、第 43 週（10/23～10/29）に注意報レベル、第 47 週（11/20～11/26）に警報レベルを超え、第 49 週(12/４～12/10)をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、０～９歳が 51.2%、10 歳代が 28.5%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 384.62、全国 468.53 で、全国と比較して 0.82 倍とやや低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



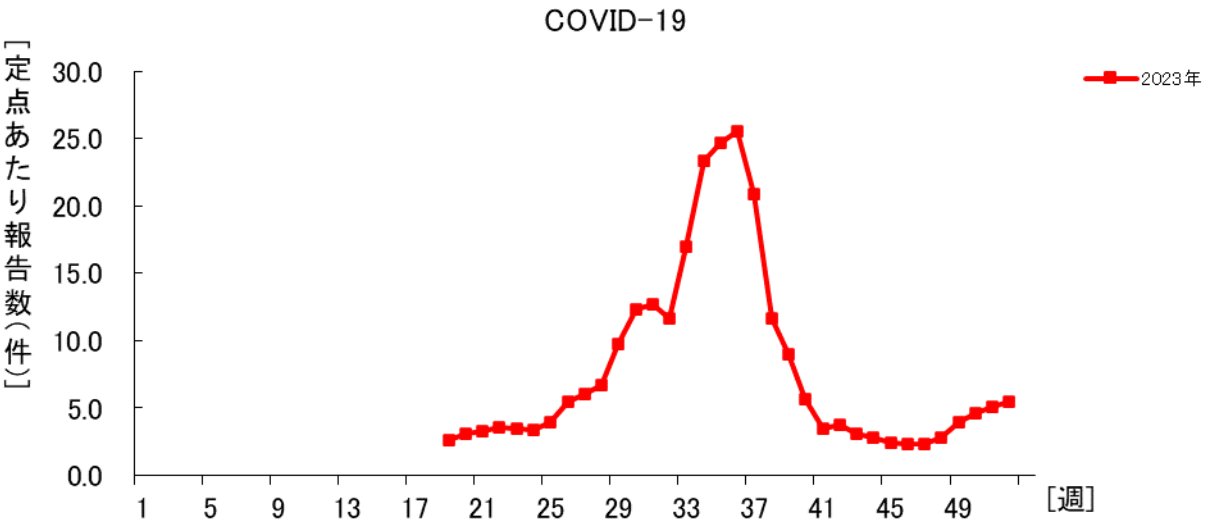
2.新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

令和５年５月８日に５類感染症に移行後の集計となります。令和５(2023)年の総報告数は 20,360 件でした。

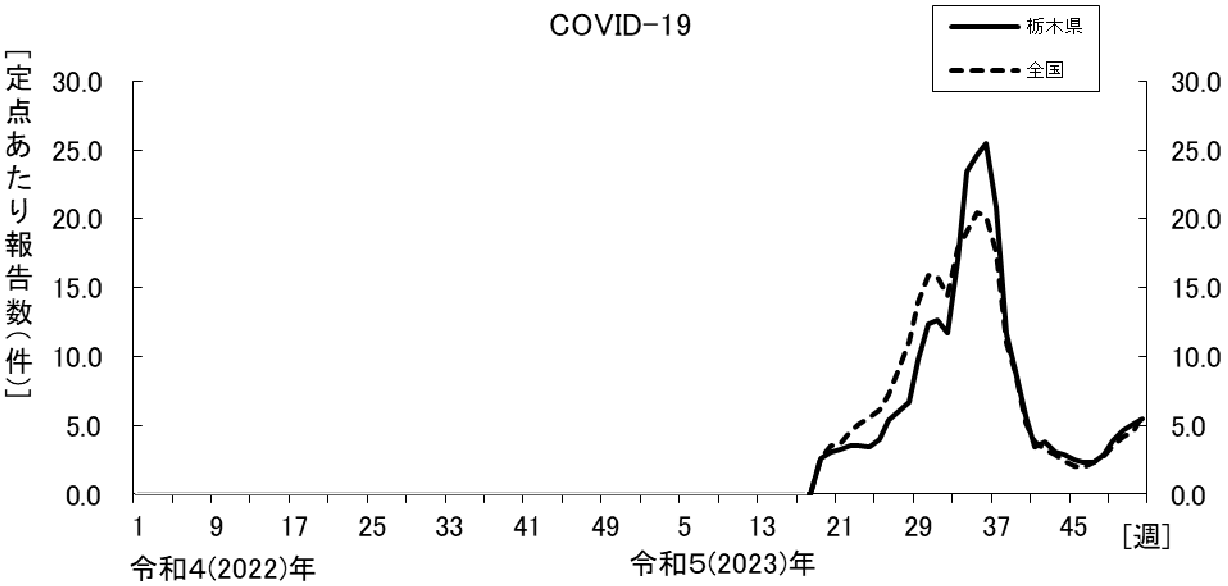
第 36 週（９/４～９/10）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、幅広い年代から満遍なく報告がありましたが、特に 10 歳代以下の報告が多く、０～９歳が 19.6%、10 歳代が 17.5%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 267.89、全国 278.09 で、全国と比較して 0.96 倍とほぼ同様の水準でした。

定点当たり報告数の動向



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



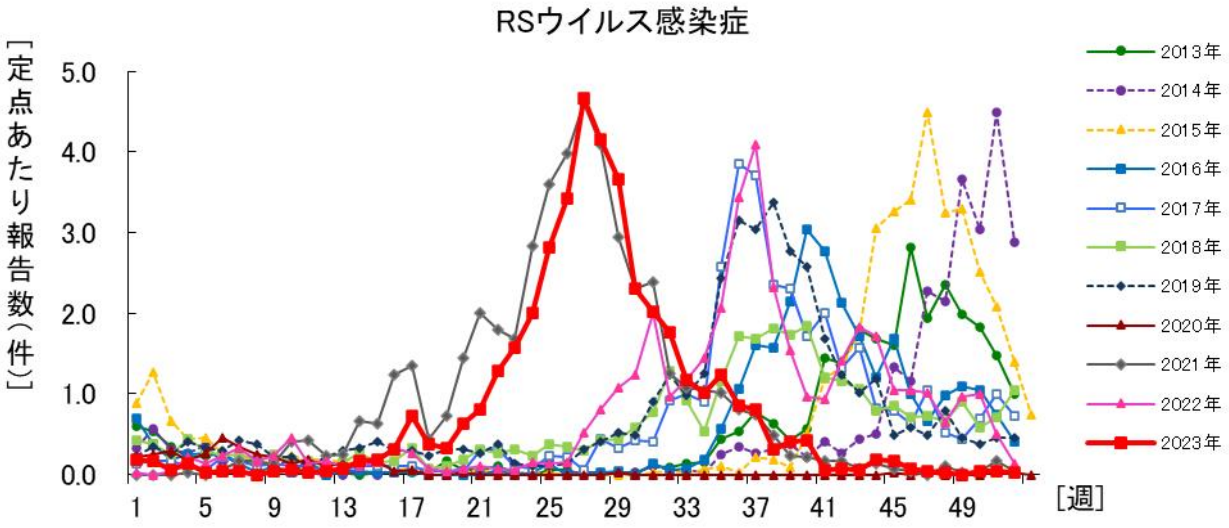
3. ＲＳウイルス感染症

令和５(2023)年の総報告数は 1,975 件で、令和４(2022)年（1,911 件）と比較すると 1.03 倍とほぼ同様の水準でした。

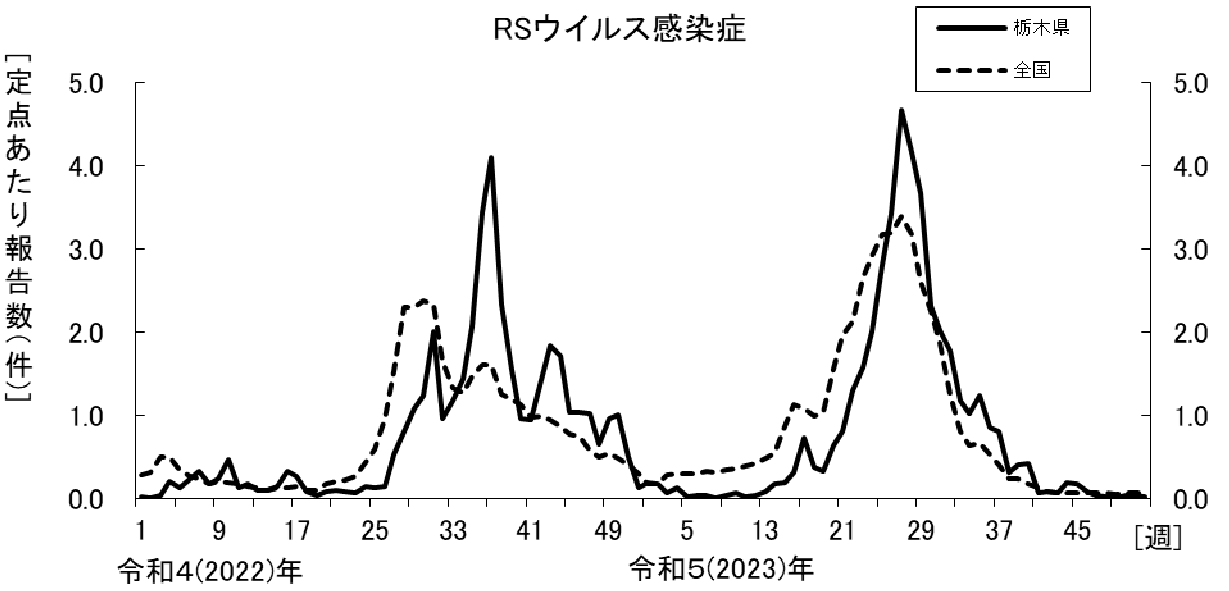
第 27 週（７/３～７/９）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、０～1 歳が 56.1%、２～４歳が 37.9%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 41.15、全国 46.35 で、全国と比較して 0.89 倍とやや低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



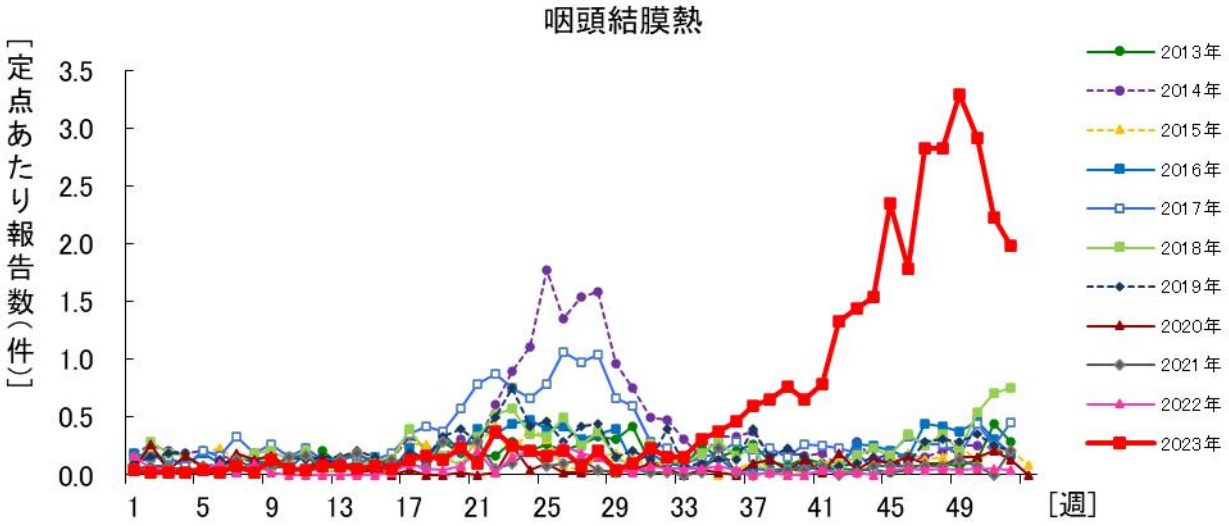
4. 咽頭結膜熱

令和５(2023)年の総報告数は 1,581 件で、令和４(2022)年（156 件）と比較すると 10.13 倍と大幅に増加しました。

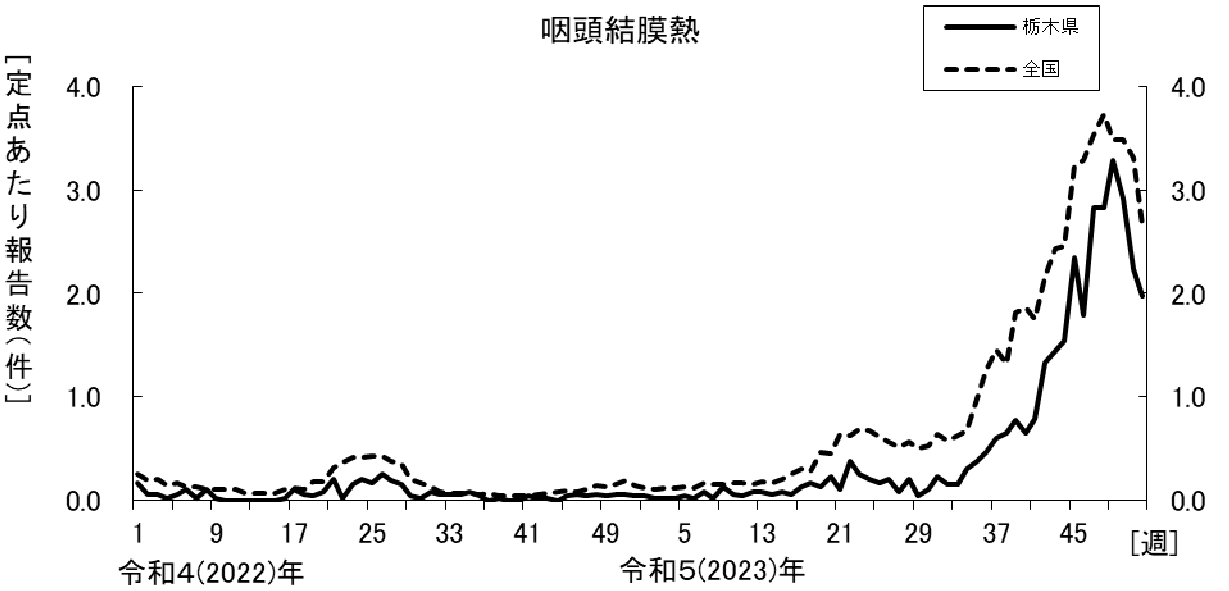
第 49 週（12/４～12/10）をピークとする報告数の増加が見られ、同時に警報レベルを超えました。年齢階級別では、０～４歳が 65.2%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 32.94、全国 56.72 で、全国と比較して 0.58 倍とかなり低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



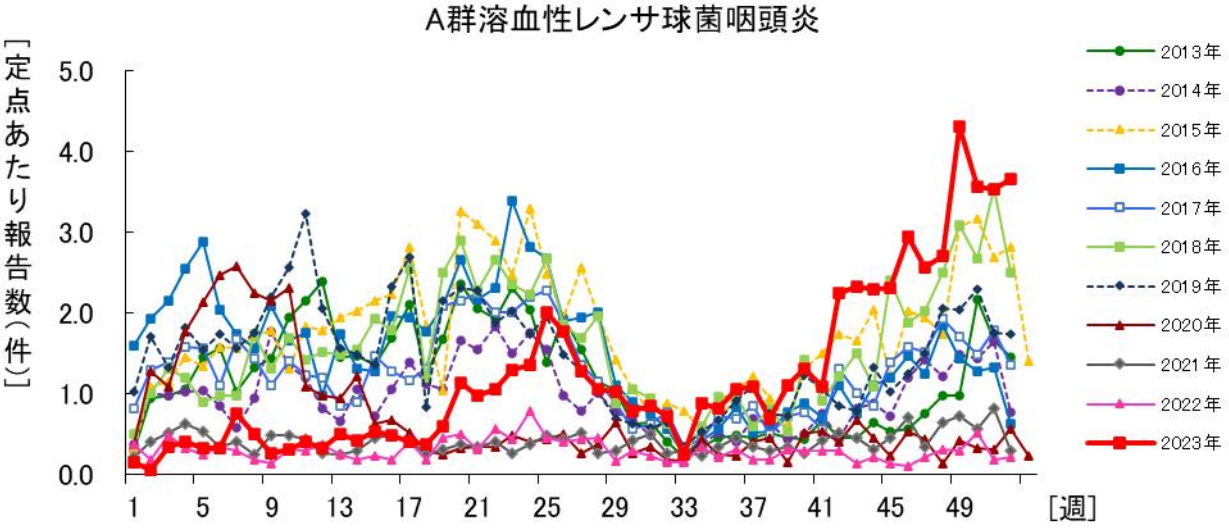
5. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

令和５(2023)年の総報告数は 3,049 件で、令和４(2022)年（745 件）と比較すると 4.09 倍と大幅に増加しました。

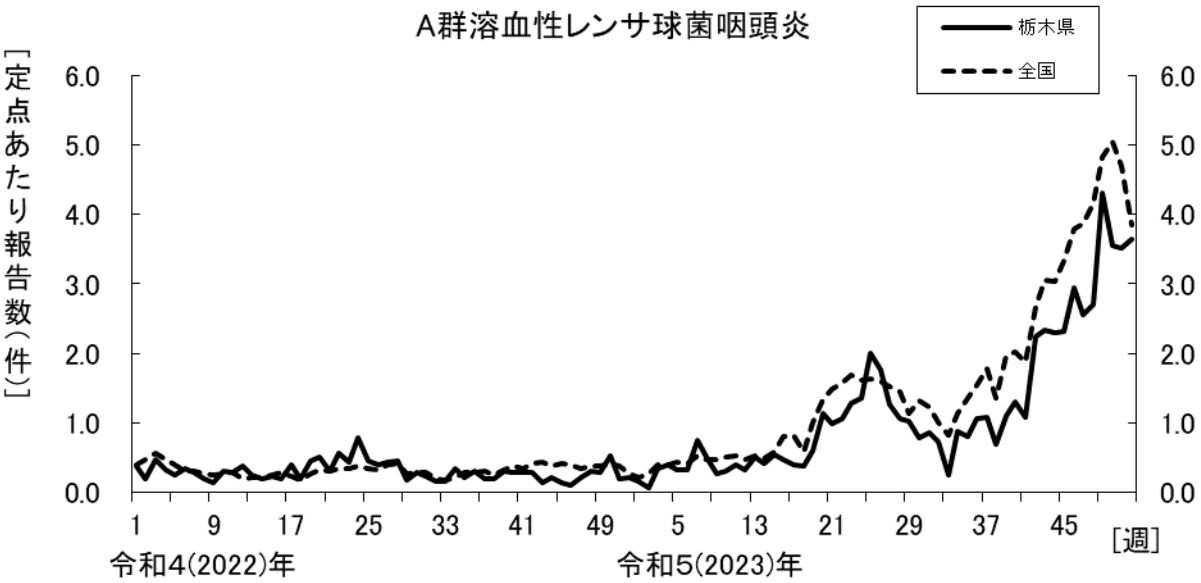
第 49 週（12/４～12/10）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、０～４歳が 29.4%、５～９歳が 55.5%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 63.52、全国 84.79 で、全国と比較して 0.75 倍とかなり低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



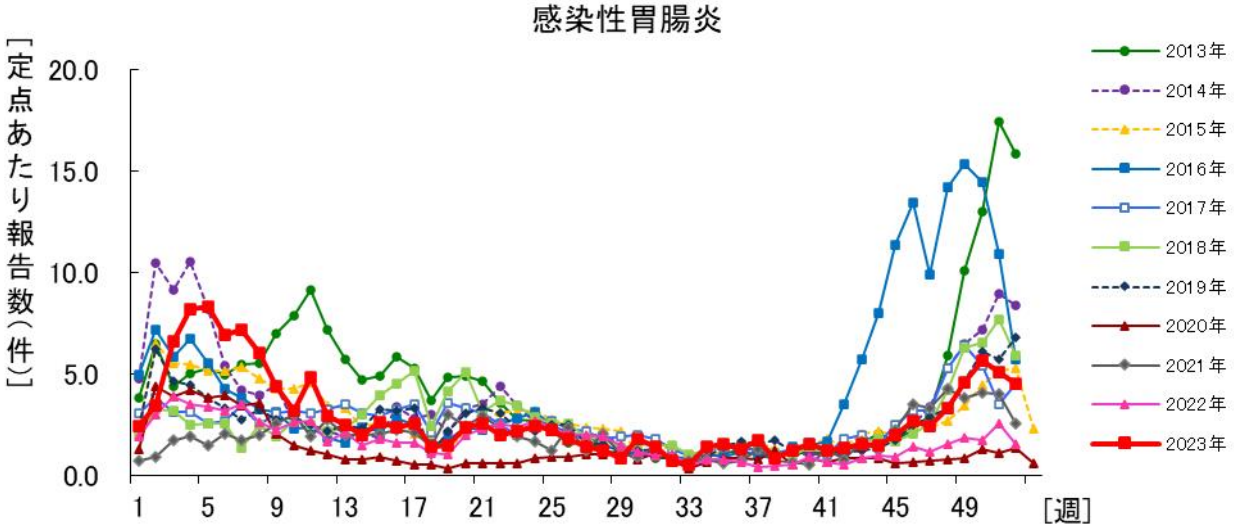
6. 感染性胃腸炎

令和５(2023)年の総報告数は 7,097 件で、令和４(2022)年（4,326 件）と比較すると 1.64 倍と大幅に増加しました。

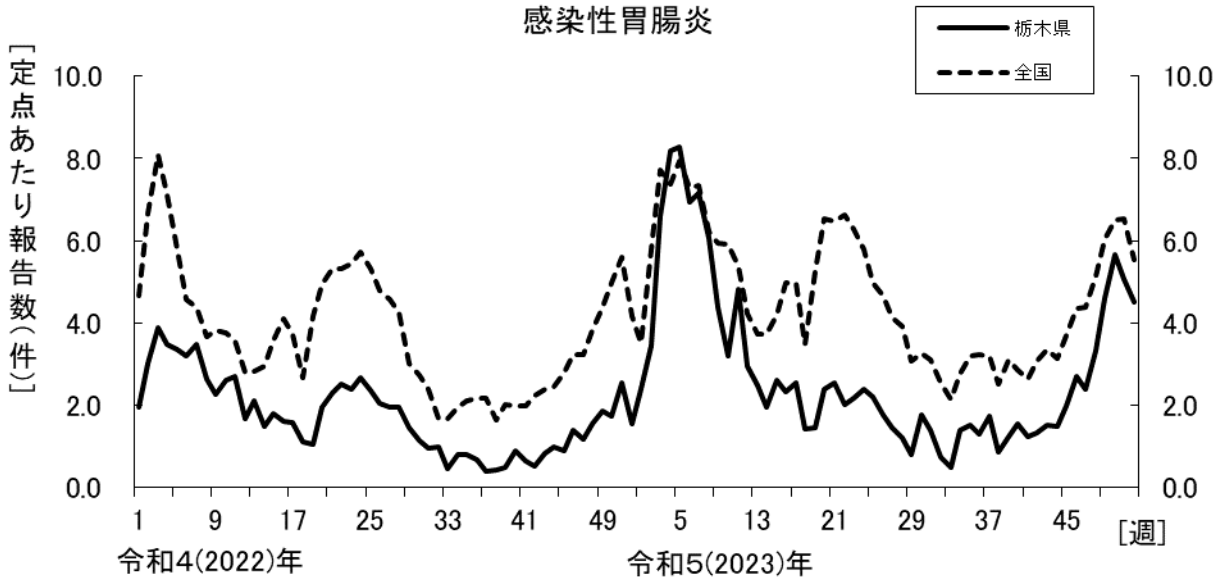
第５週（１/30～２/５）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、０～４歳が 55.0%、５～９歳が 30.9%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 147.85、全国 243.90 で、全国と比較して 0.61 倍とかなり低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



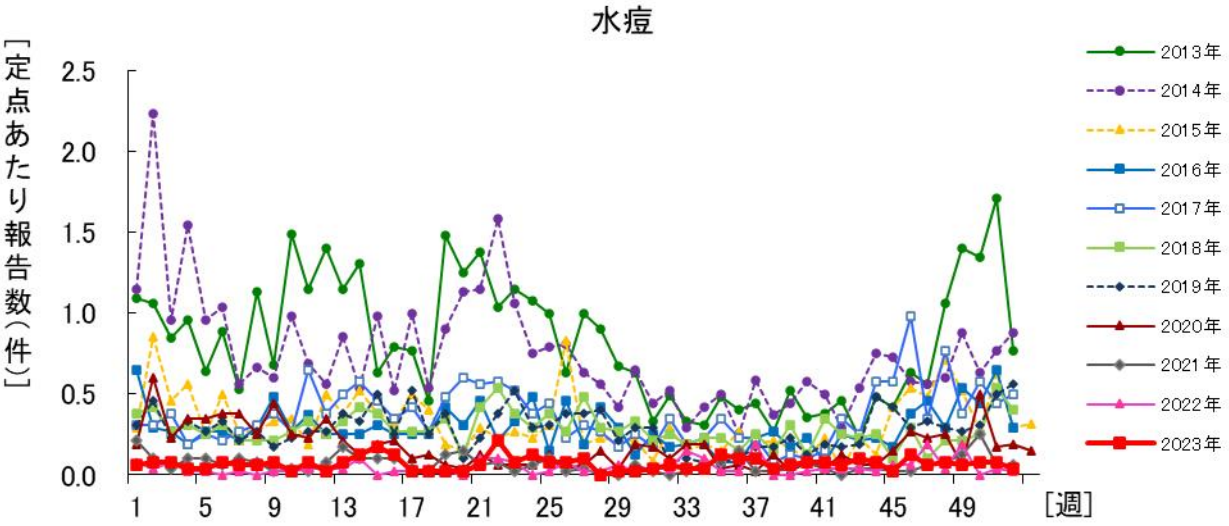
7. 水痘

令和５(2023)年の総報告数は 178 件で、令和４(2022)年（120 件）と比較すると 1.48 倍とかなり増加しました。

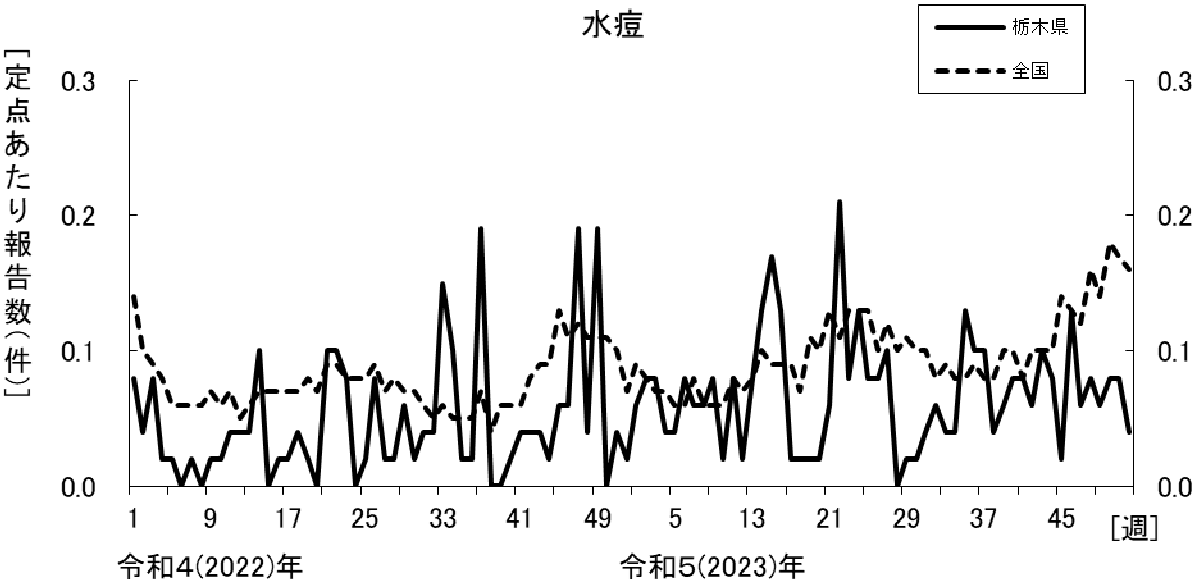
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、０～４歳が 20.8%、５～９歳が 53.4%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 3.71、全国 5.18 で、全国と比較して 0.72 倍とかなり低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



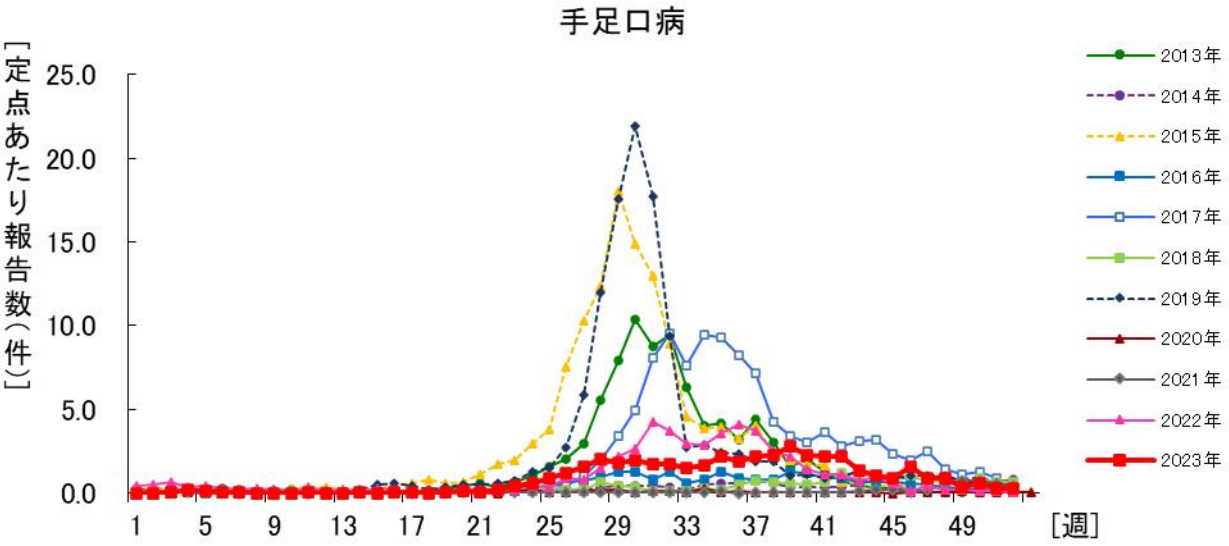
8. 手足口病

令和５(2023)年の総報告数は 2,110 件で、令和４(2022)年（2,475 件）と比較すると 0.85 倍とやや減少しました。

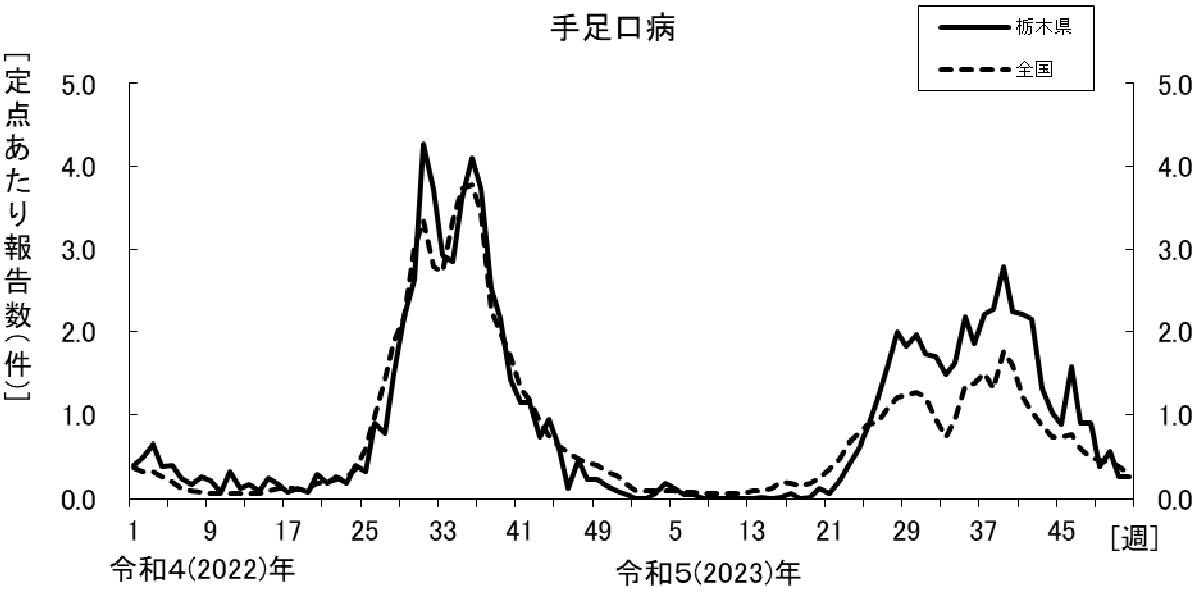
第 39 週（９/25～10/１）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、０～４歳が 75.8%、５～９歳が 22.4%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 43.96、全国 31.88 で、全国と比較して 1.38 倍とかなり高い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



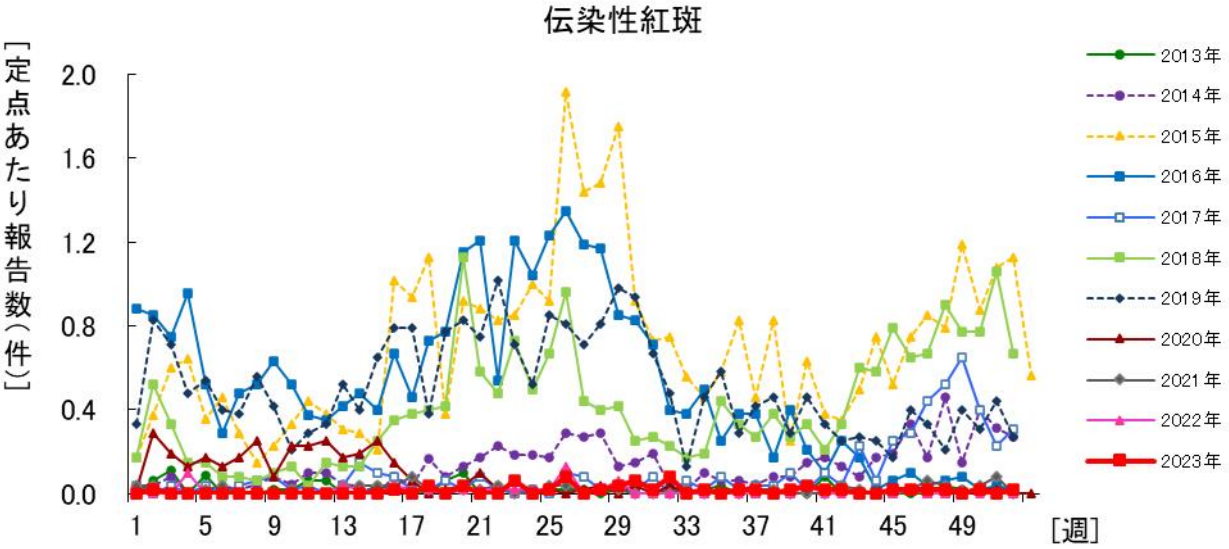
9. 伝染性紅斑

令和５(2023)年の総報告数は 39 件で、令和４(2022)年(32 件)と比較すると 1.22 倍とやや増加しました。

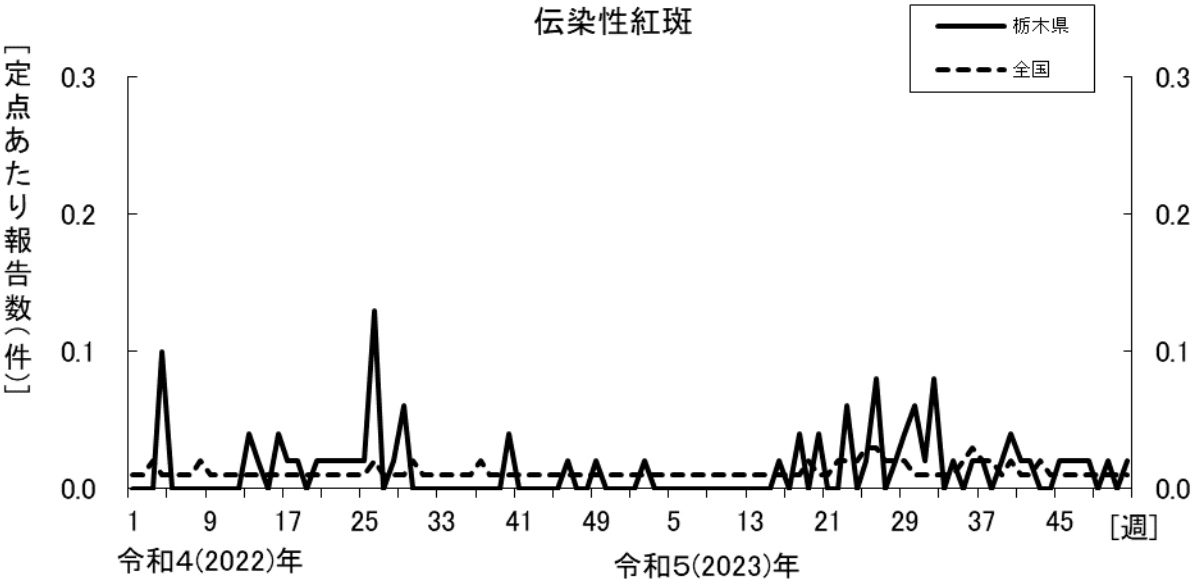
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、０～４歳が 56.4%、５～９歳が 38.5%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.81、全国 0.71 で、全国と比較して 1.14 倍とやや高い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



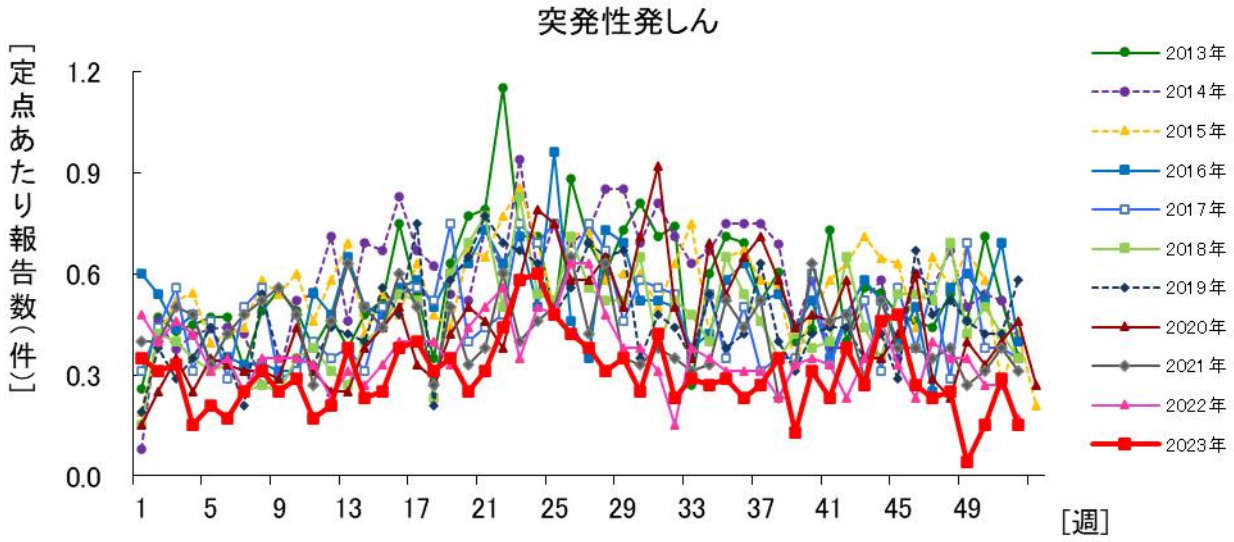
10. 突発性発しん

令和５(2023)年の総報告数は 751 件で、令和４(2022)年（904 件）と比較すると 0.83 倍とやや減少しました。

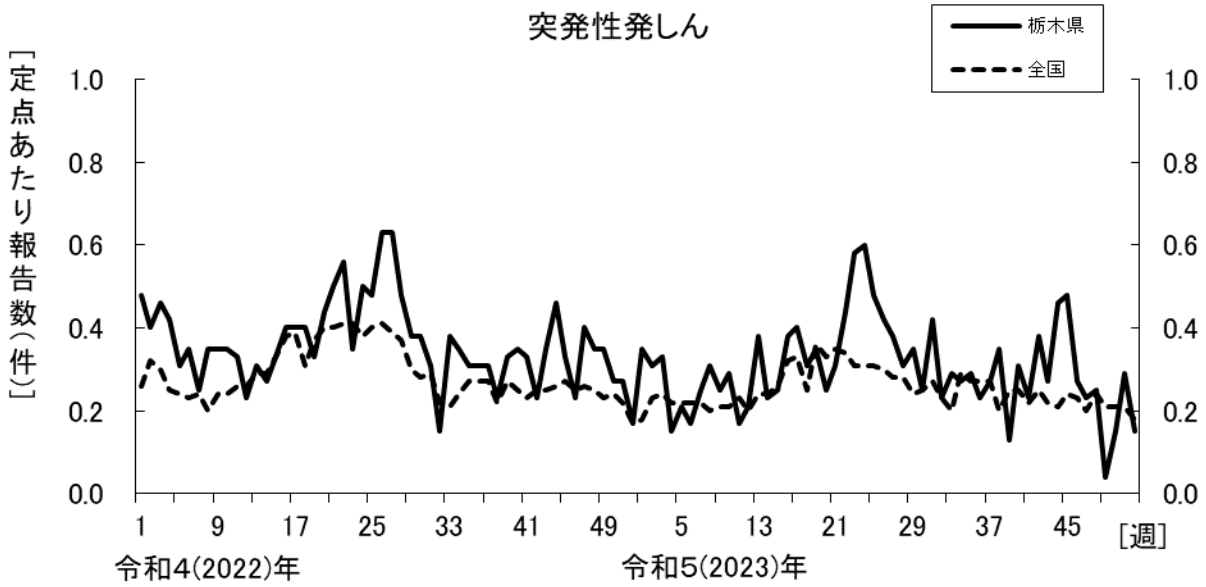
年間を通じて報告がありました。年齢階級別では、１歳以下が 85.5%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 15.65、全国 13.00 で、全国と比較して 1.20 倍とやや高い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



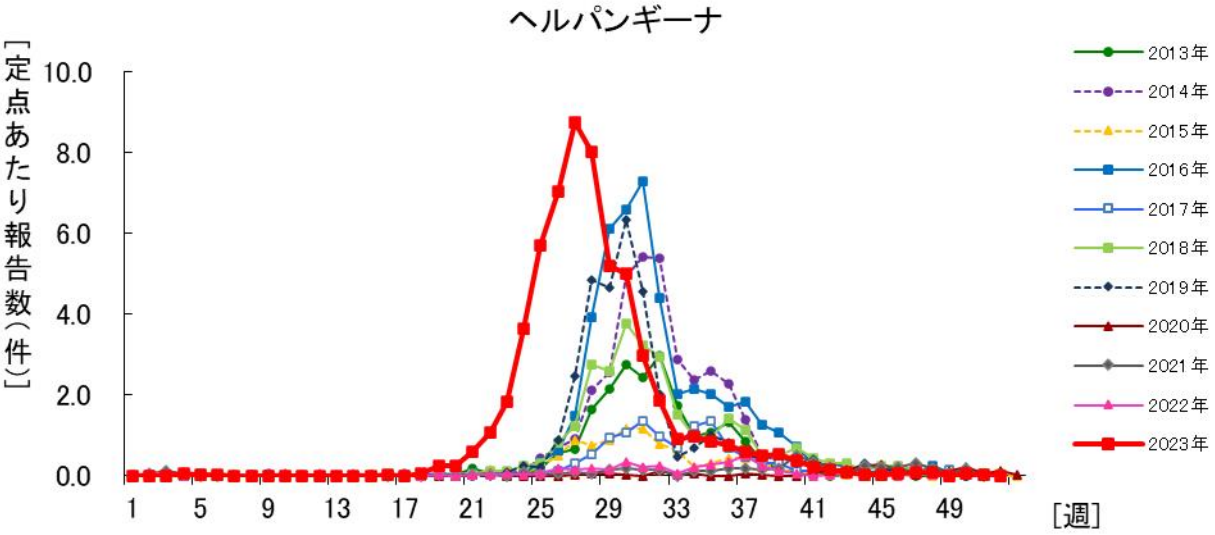
11. ヘルパンギーナ

令和５(2023)年の総報告数は 2,801 件で、令和４(2022)年（192 件）と比較すると 14.59 倍と大幅に増加しました。

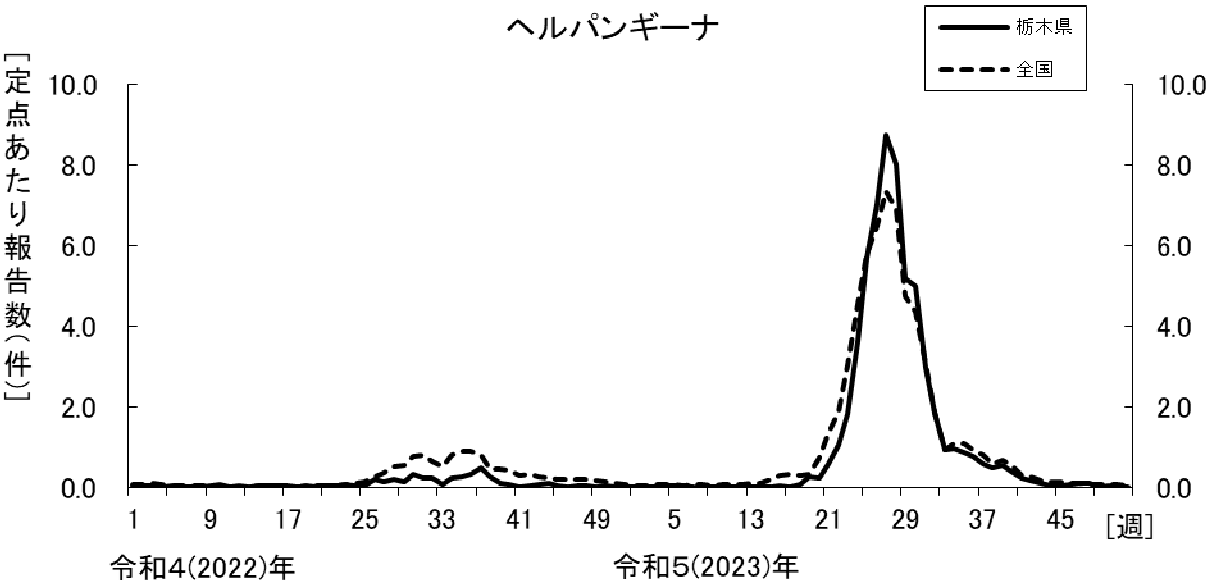
第 26 週（6/26～７/２）に警報レベルを超え、第 27 週（７/３～７/９）をピークとする報告数の増加が見られました。年齢階級別では、０～４歳が 74.0%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 58.35、全国 62.02 で、全国と比較して 0.94 倍とほぼ同様の水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



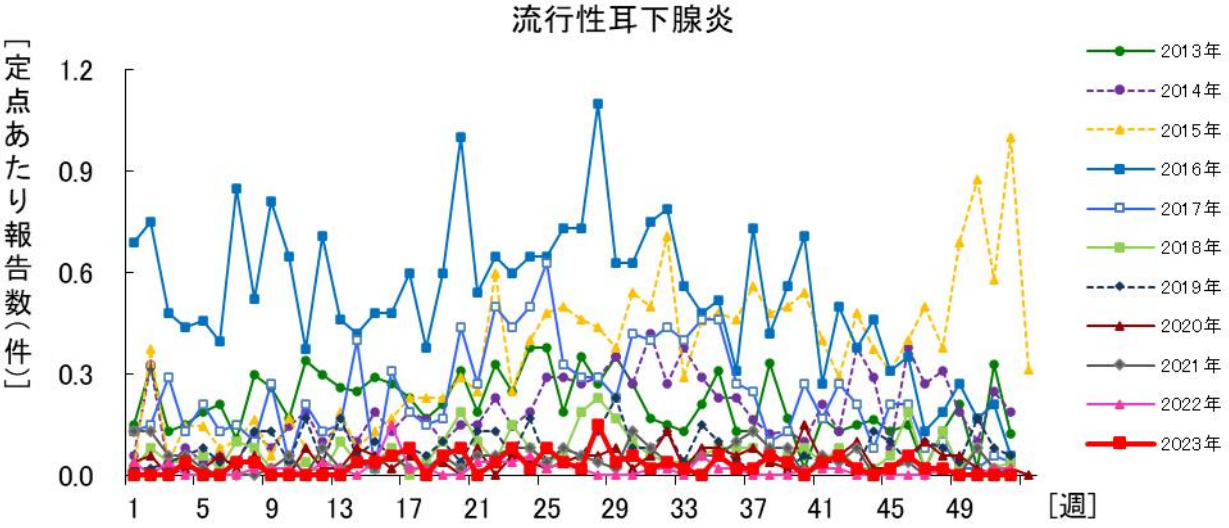
12. 流行性耳下腺炎

令和５(2023)年の総報告数は 76 件で、令和４(2022)年(47 件)と比較すると 1.62 倍と大幅に増加しました。

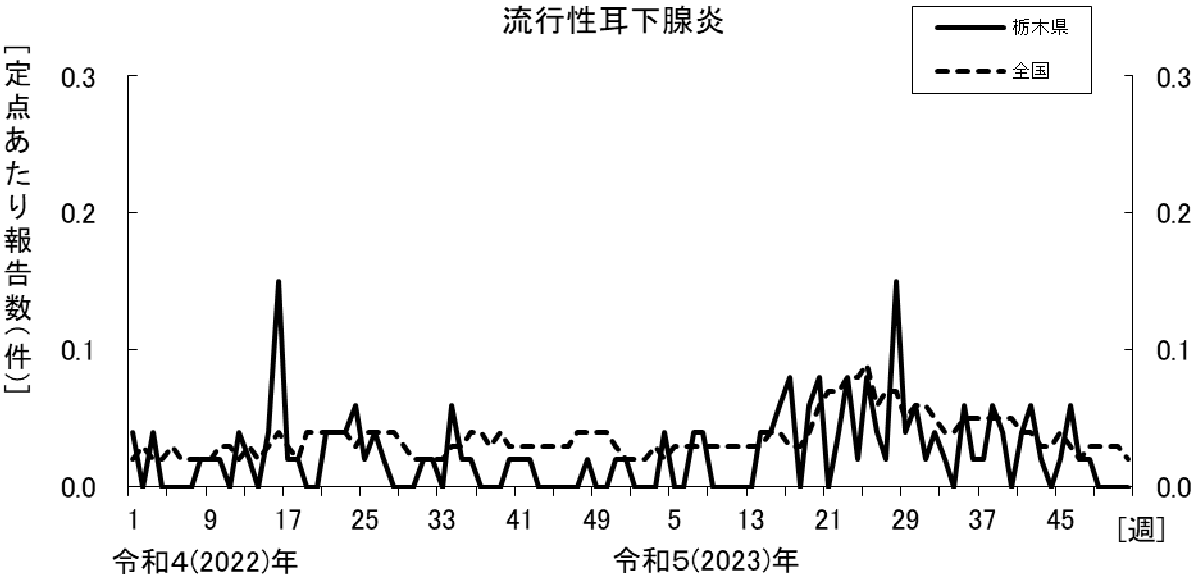
年間を通じて大きな流行は見られませんでした。年齢階級別では、５～９歳が 59.2%を占めました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 1.58、全国 2.19 で、全国と比較して 0.72 倍とかなり低い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

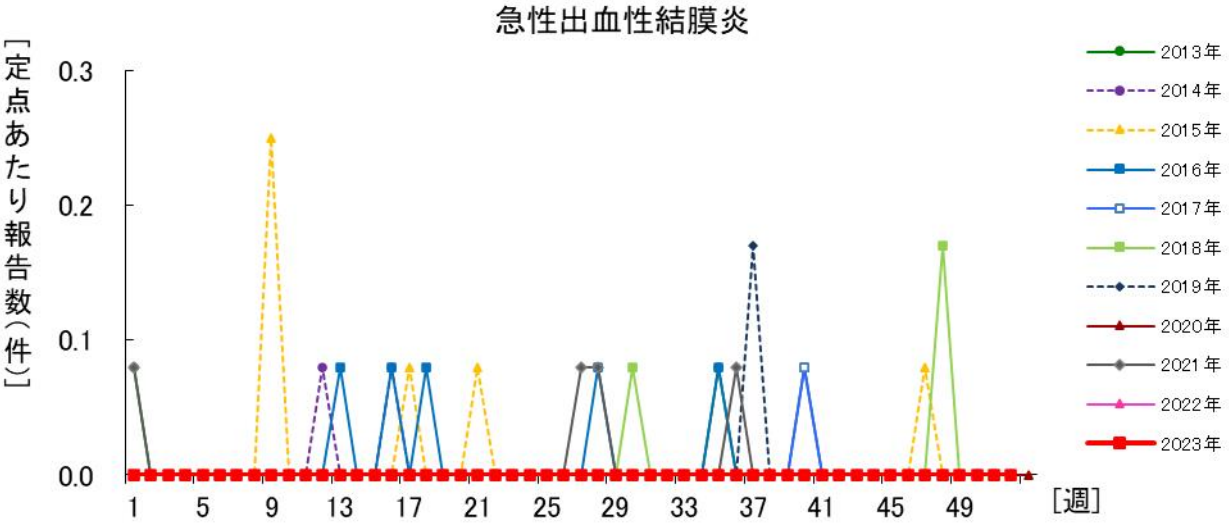


13. 急性出血性結膜炎

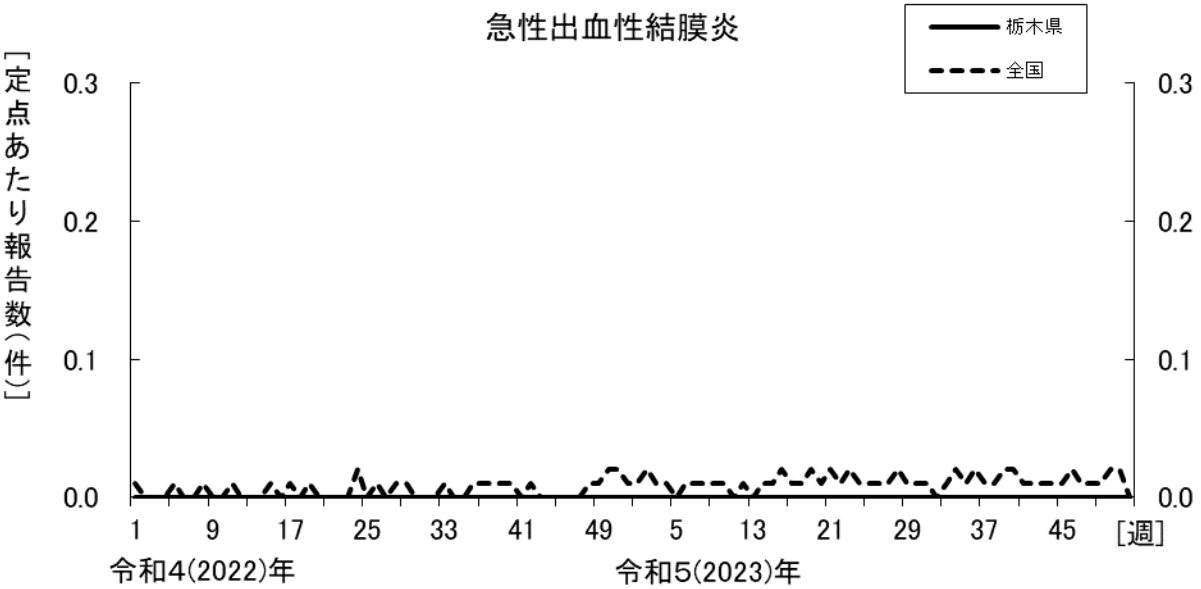
令和５(2023)年の総報告数は０件でした（令和４(2022)年は０件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.00、全国 0.61 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

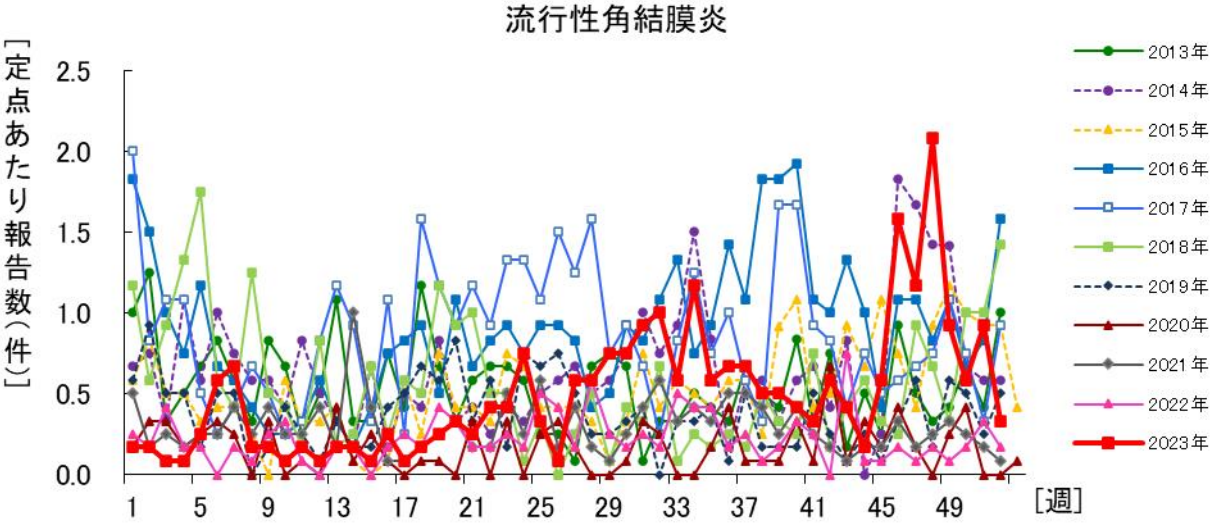


14. 流行性角結膜炎

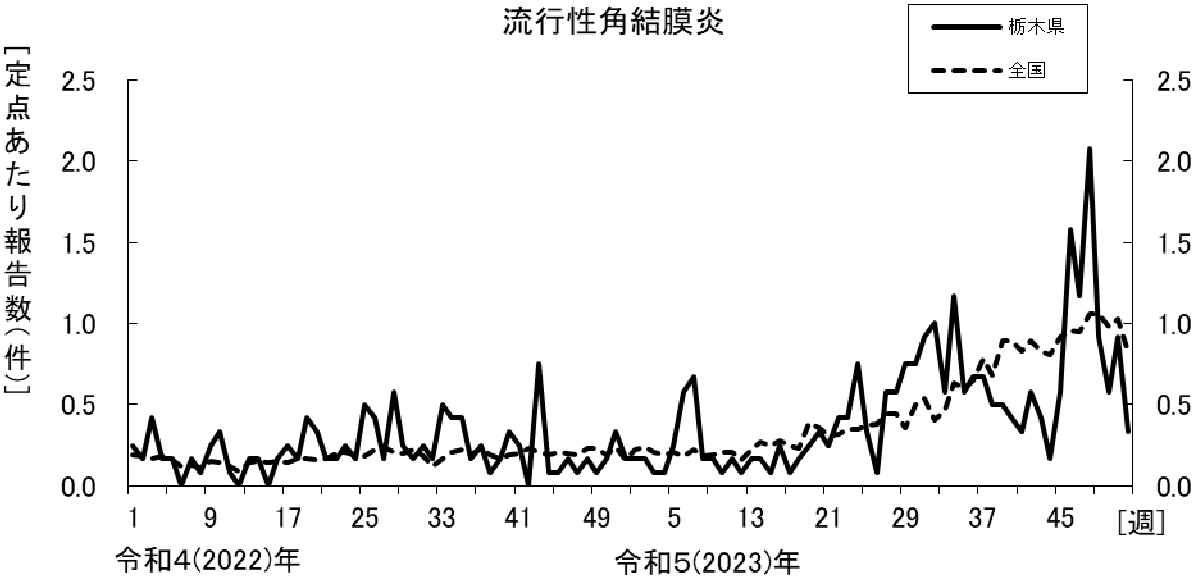
令和５(2023)年の総報告数は 309 件で、令和４(2022)年（140 件）と比較すると 2.21 倍と大幅に増加しました。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 25.75、全国 26.15 で、全国と比較して 0.98 倍とほぼ同様の水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

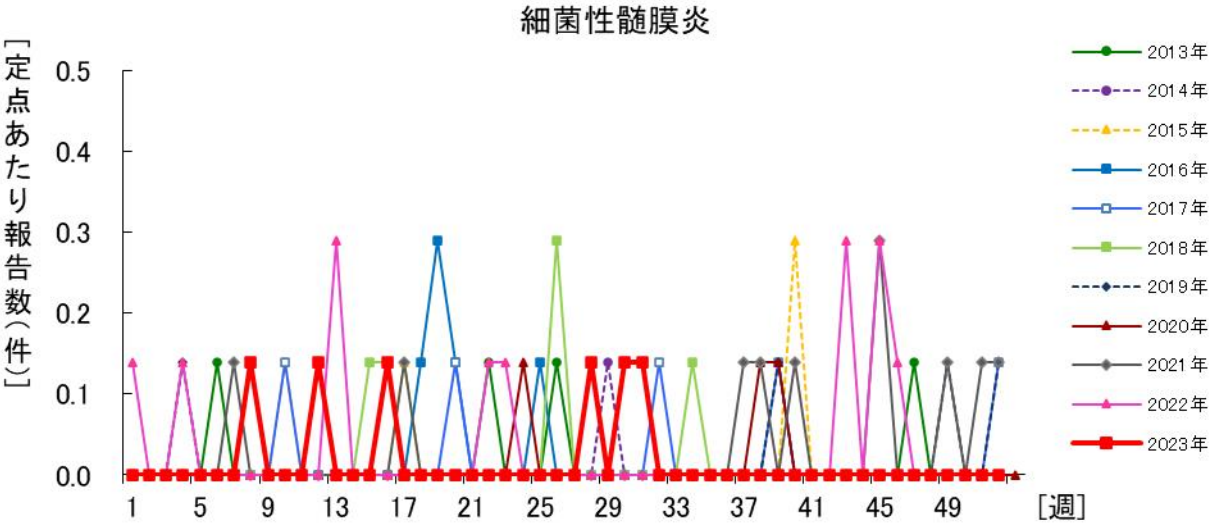


15. 細菌性髄膜炎

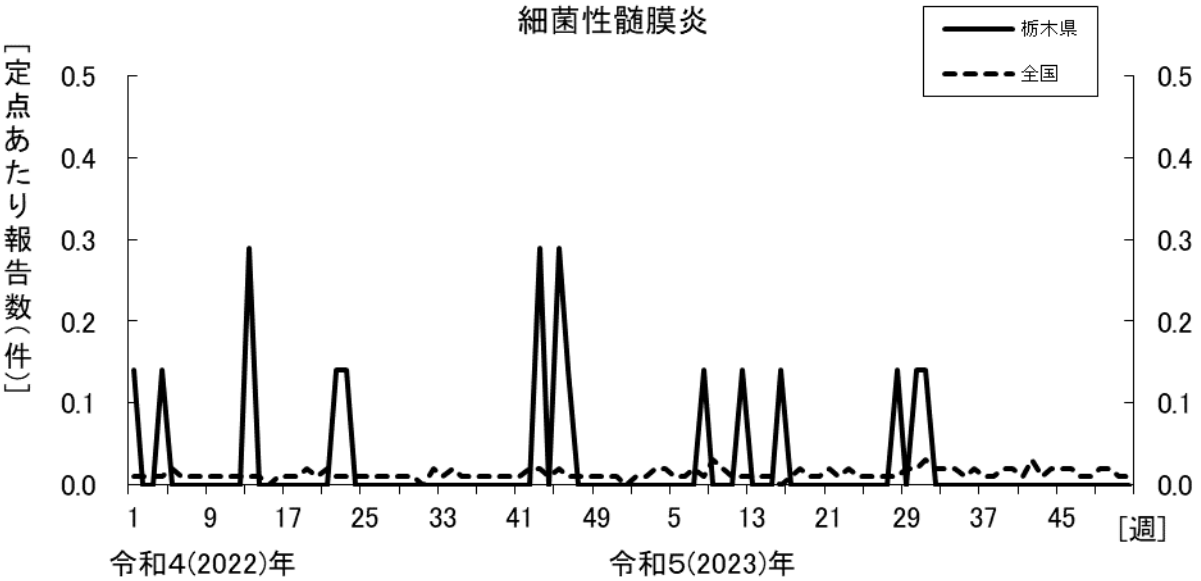
令和５(2023)年の総報告数は６件でした（令和４(2022)年は 11 件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.86、全国 0.84 で、全国と比較して 1.02 倍とほぼ同様の水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

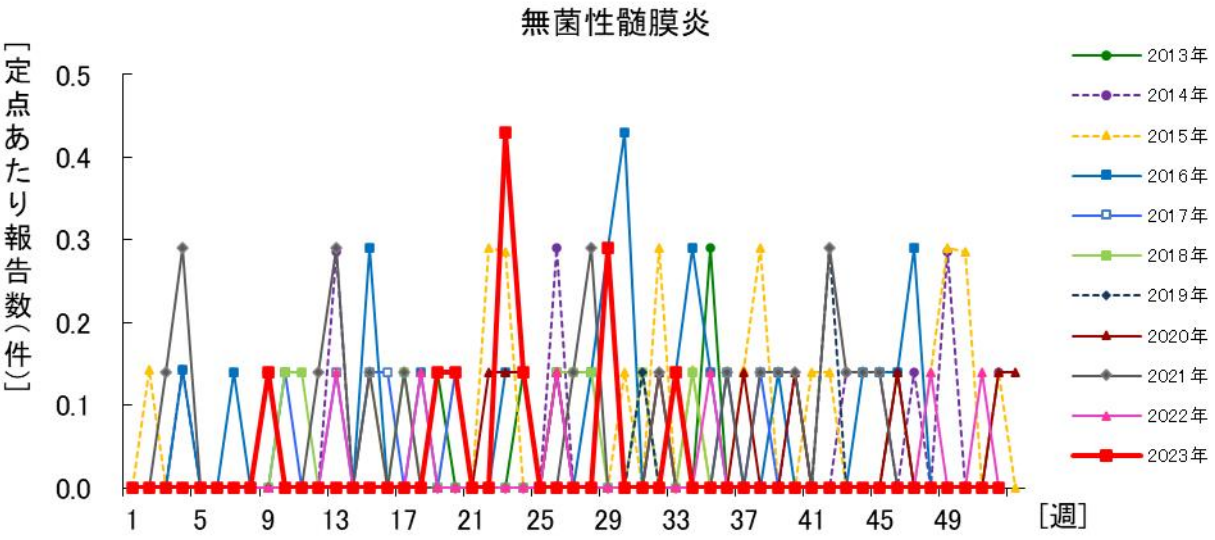


16. 無菌性髄膜炎

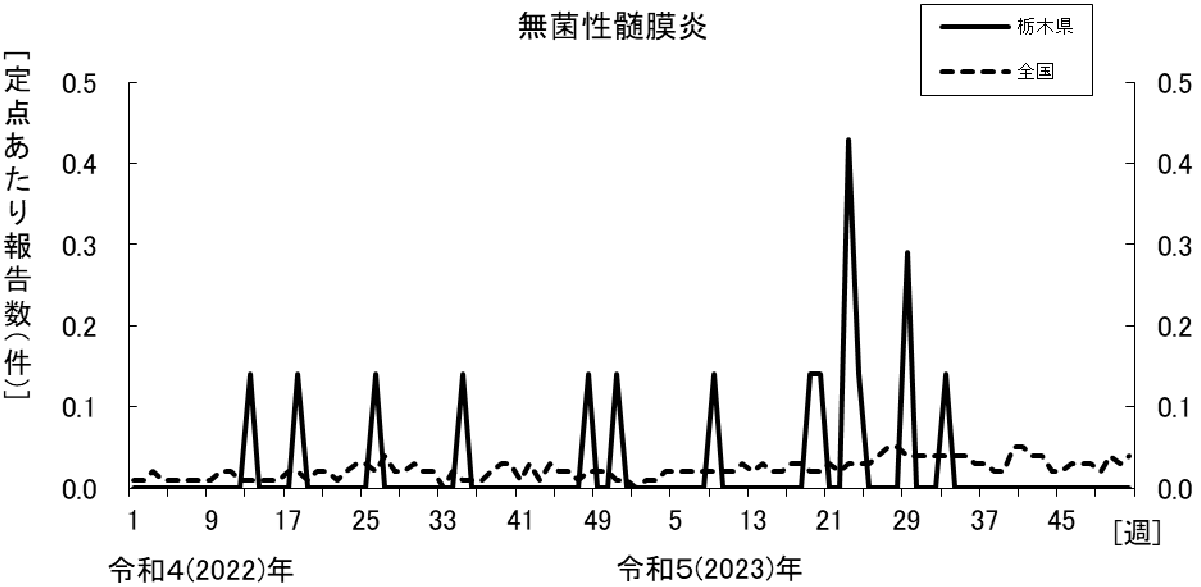
令和５(2023)年の総報告数は 10 件でした（令和４(2022)年は６件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 1.43、全国 1.49 で、全国と比較して 0.96 倍とほぼ同様の水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

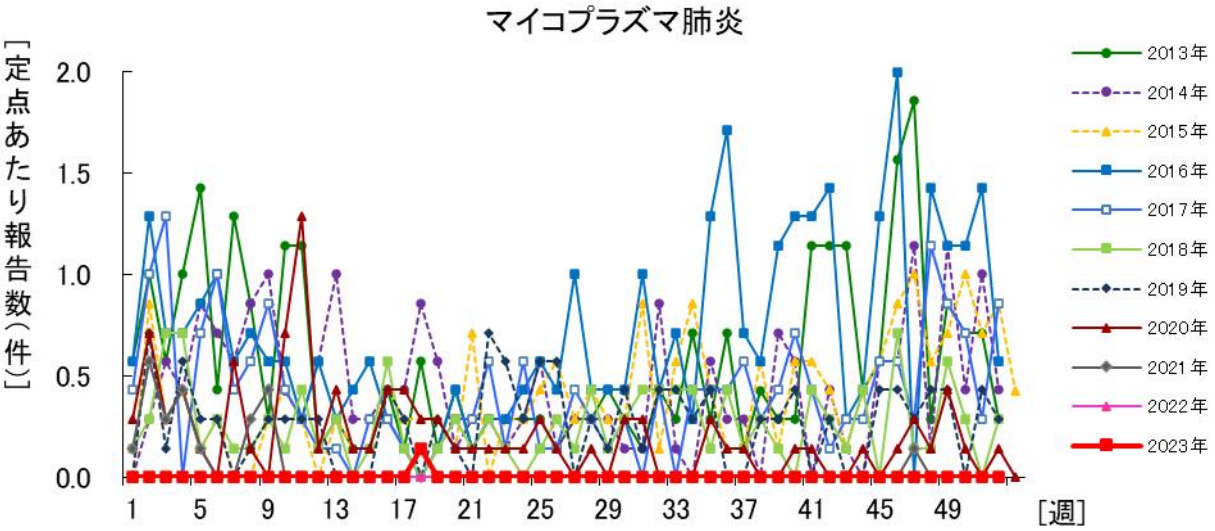


17. マイコプラズマ肺炎

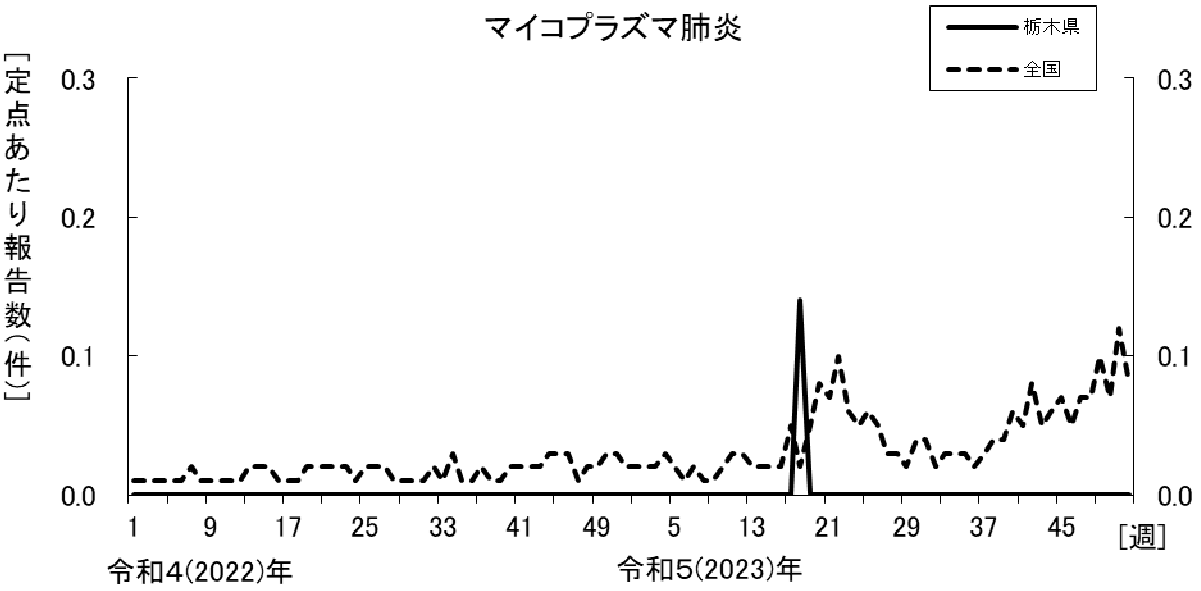
令和５(2023)年の総報告数は１件でした（令和４(2022)年は０件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.14、全国 2.24 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

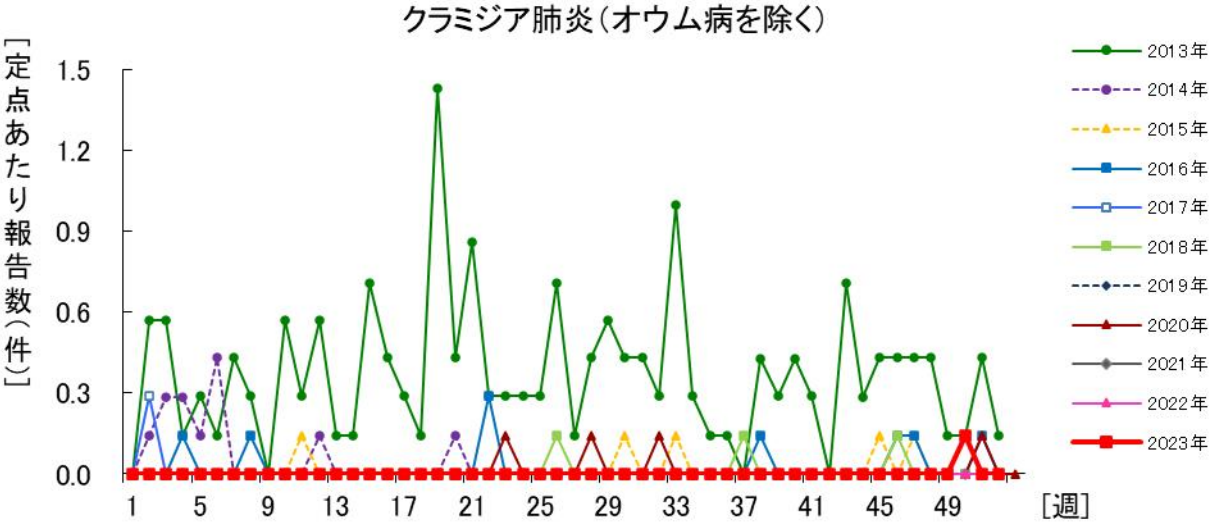


18. クラミジア肺炎（オウム病を除く）

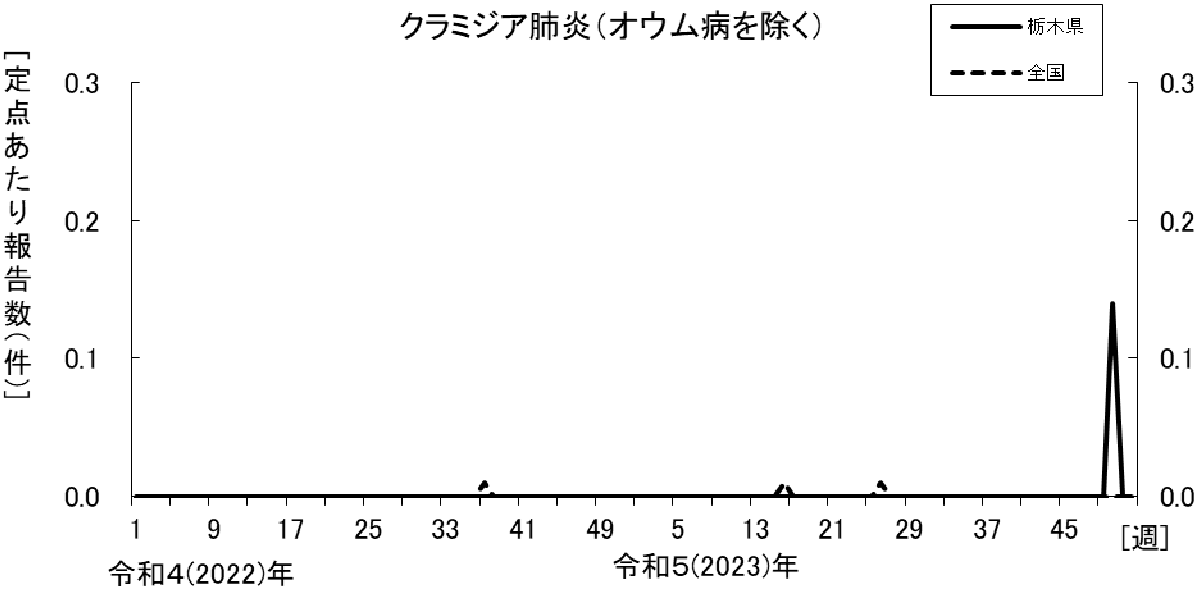
令和５(2023)年の総報告数は１件でした（令和４(2022)年は０件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.14、全国 0.05 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

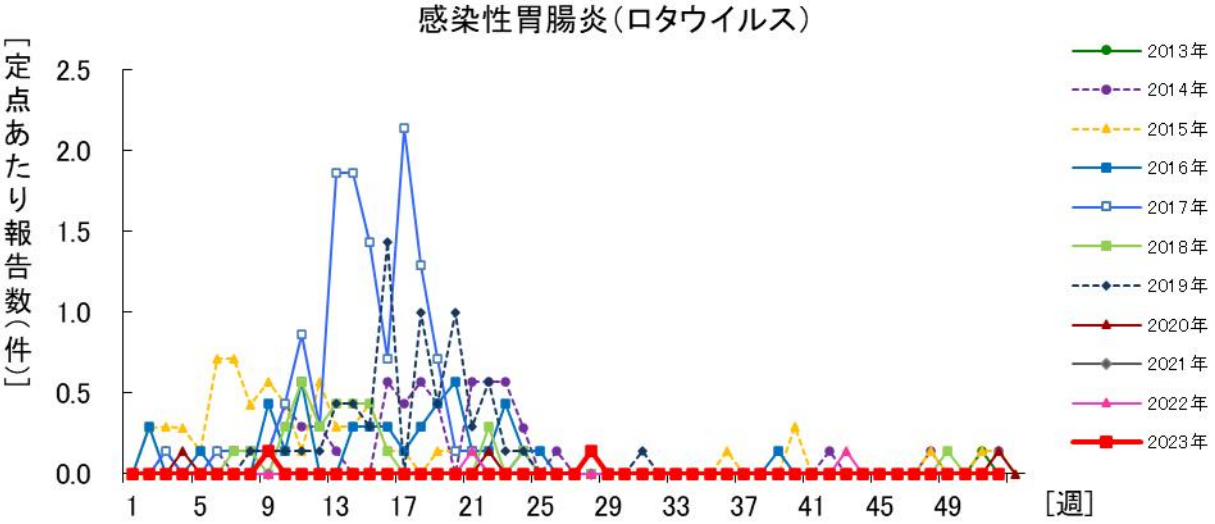


19. 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

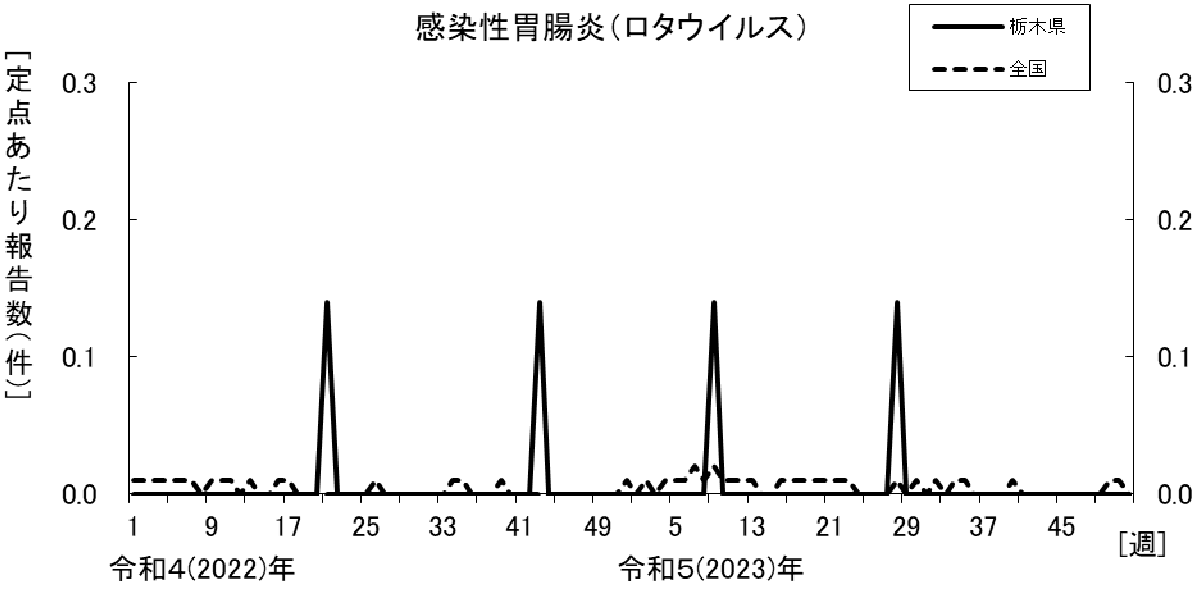
令和５(2023)年の総報告数は２件でした。(令和４(2022)年は２件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.29、全国 0.30 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



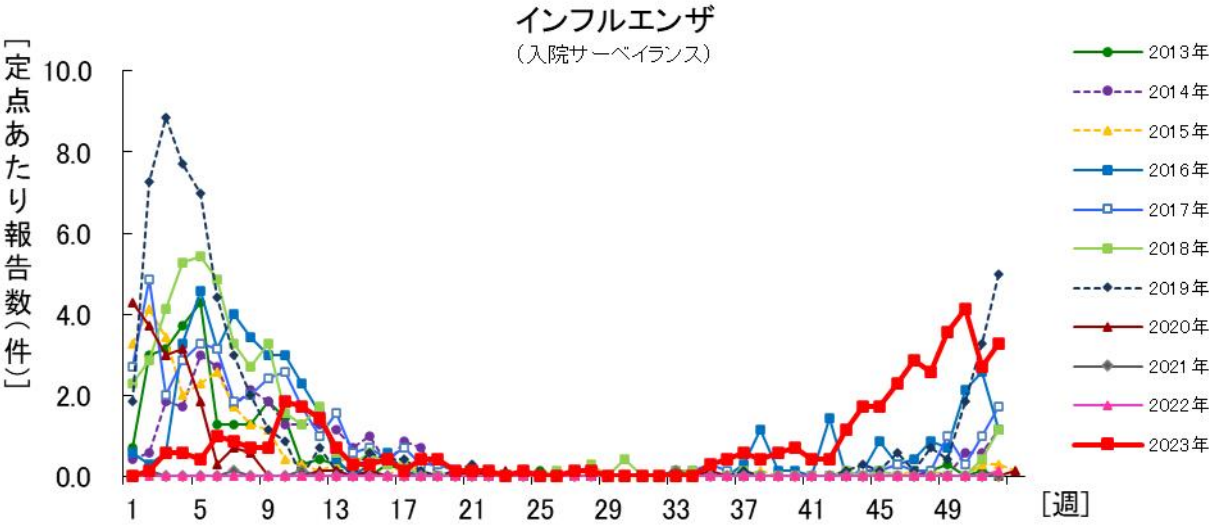
20. インフルエンザ（入院サーベイランス）

令和５(2023)年の総報告数は 304 件で、令和４(2022)年（１件）と比較すると 304.00 倍と大幅に増加しました。

年齢階級別では、０～９歳が 47.0%を占めました。70 歳以上の割合も多く３割近くを占めました（70 歳代 11.5%、80 歳代 10.2%、90 歳以上 5.6%）。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 43.43 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



※全国における週ごとの定点当たり報告数の確定データが公表されないため、「定点当たり報告数の動向（全国との比較）」のグラフは掲載いたしません。

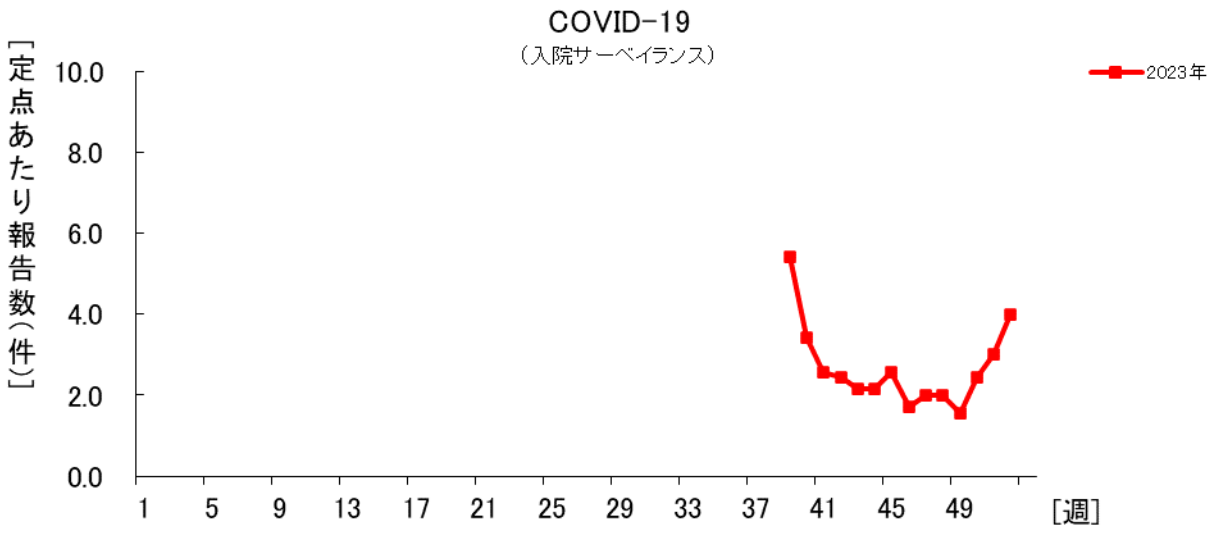
21. COVID-19（入院サーベイランス）

令和５年９月25日から集計が始まりました。令和５(2023)年の総報告数は262件でした。

年齢階級別では、60歳以上が８割を占めました（60歳代13.0%、70歳代18.7%、80歳代30.9%、90歳以上19.1%）。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 37.43 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



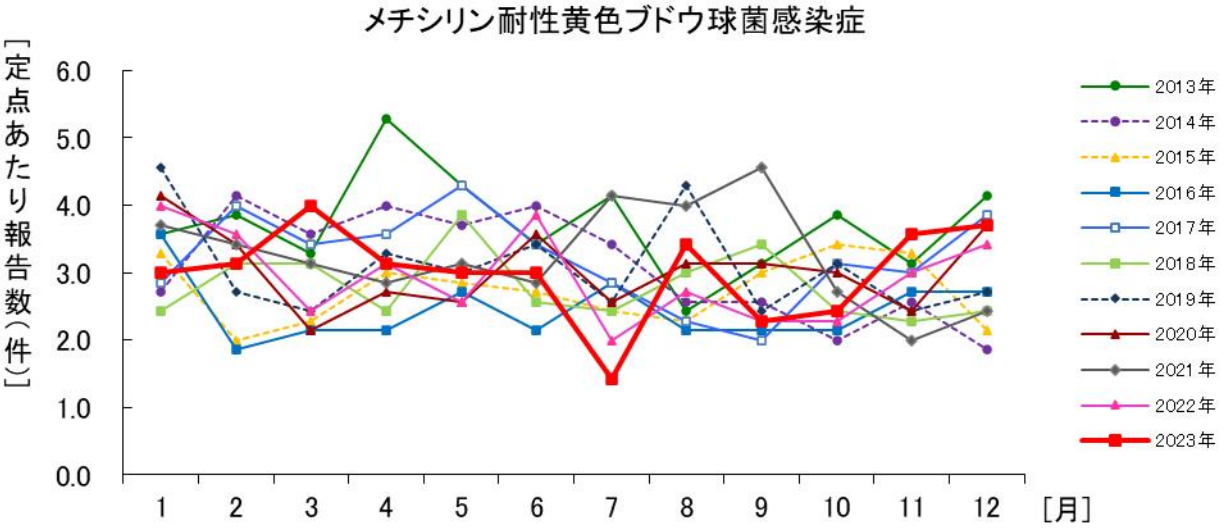
※全国における週ごとの定点当たり報告数の確定データが公表されないため、「定点当たり報告数の動向（全国との比較）」のグラフは掲載いたしません。

22. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

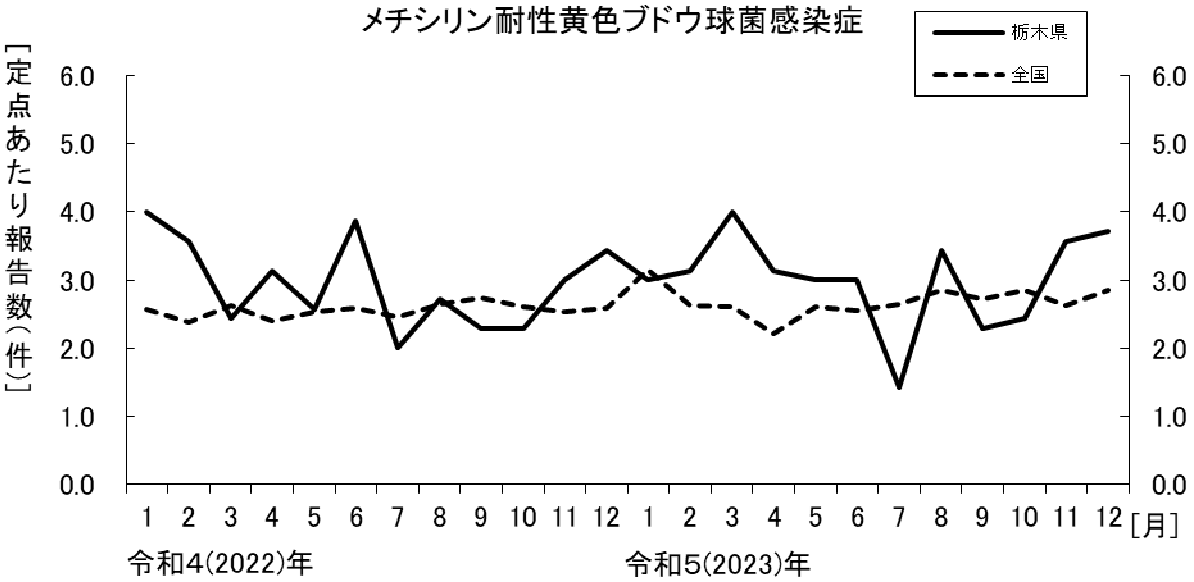
令和５(2023)年の総報告数は 253 件で、令和４(2022)年（247 件）と比較すると 1.02 倍とほぼ同様の水準でした。

年間を通じて報告があり、年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 36.14、全国 32.36 で、全国と比較して 1.12 倍とやや高い水準でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

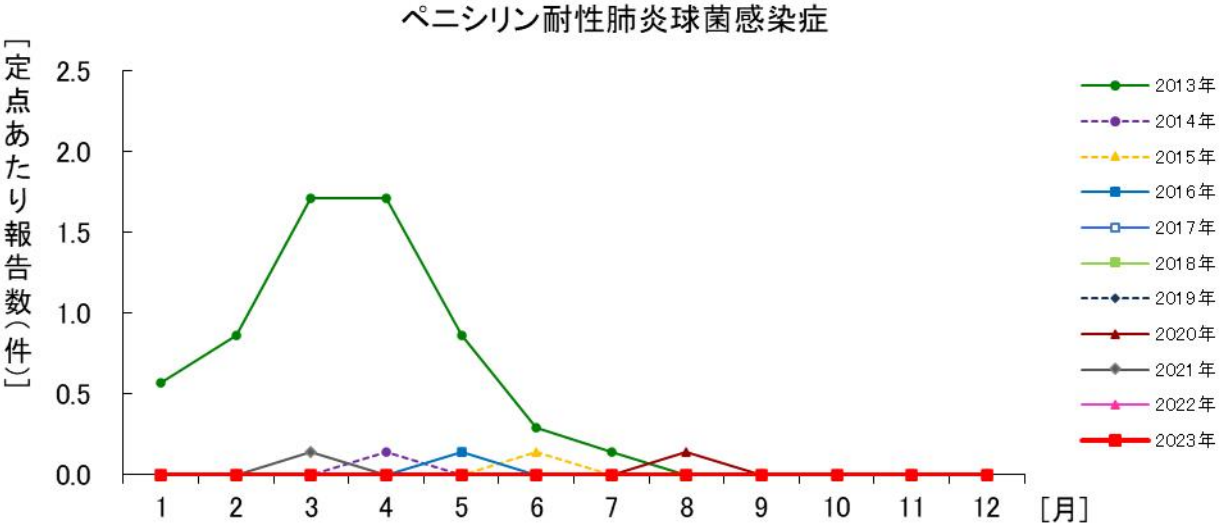


23. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

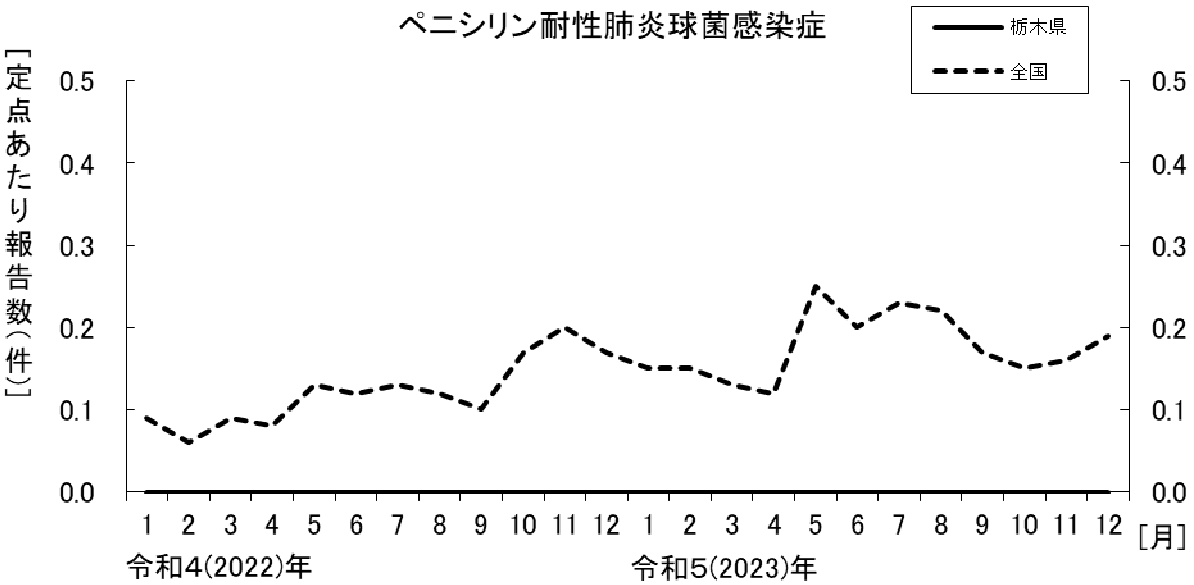
令和５(2023)年の総報告数は０件でした（令和４(2022)年は０件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 0.00、全国 2.11 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）

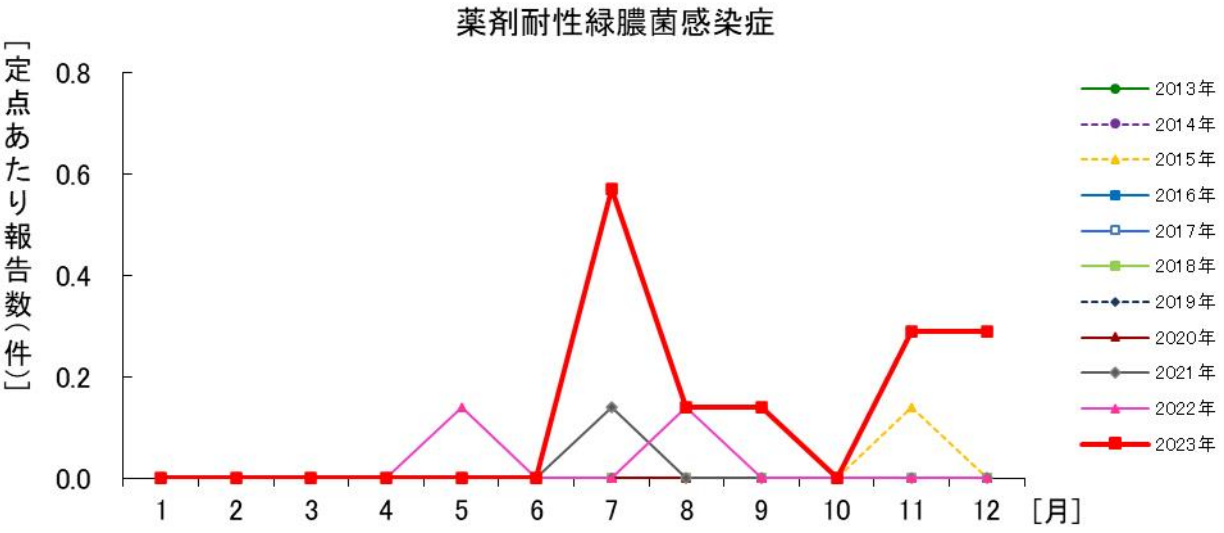


24. 薬剤耐性緑膿菌感染症

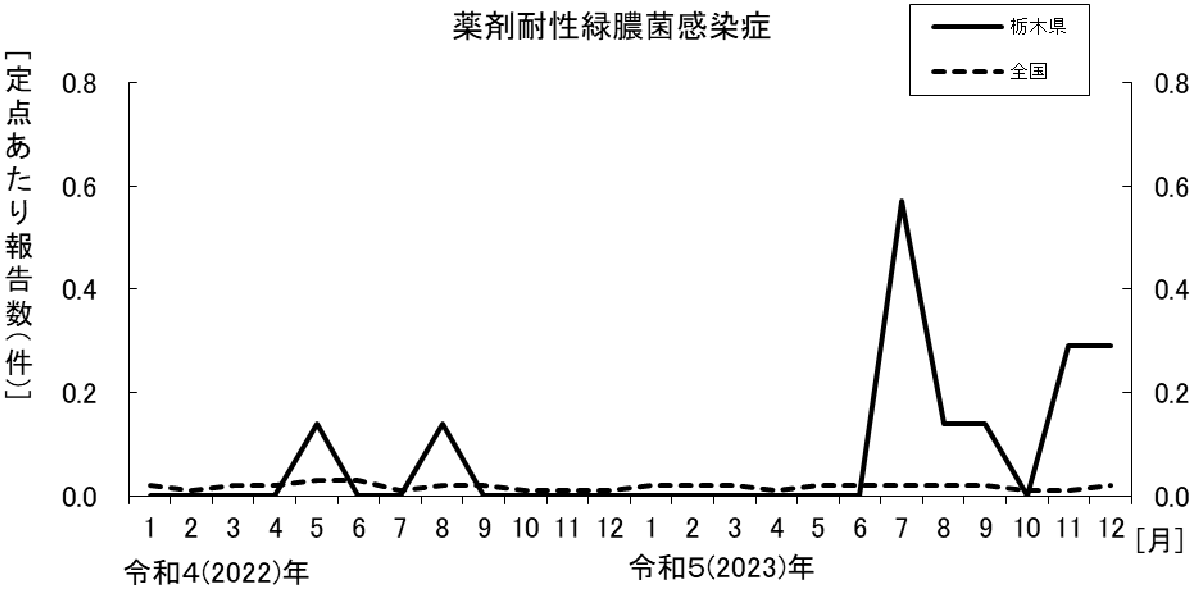
令和５(2023)年の総報告数は 10 件でした（令和４(2022)年は２件)。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 1.43、全国 0.20 でした。

定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）



定点当たり報告数の動向（全国との比較）



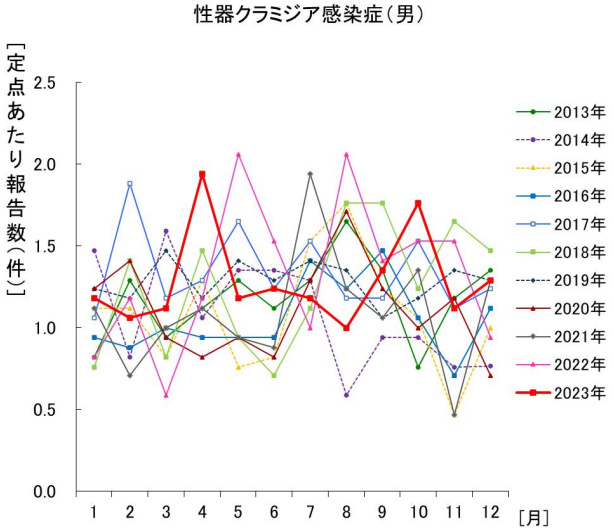
25. 性器クラミジア感染症

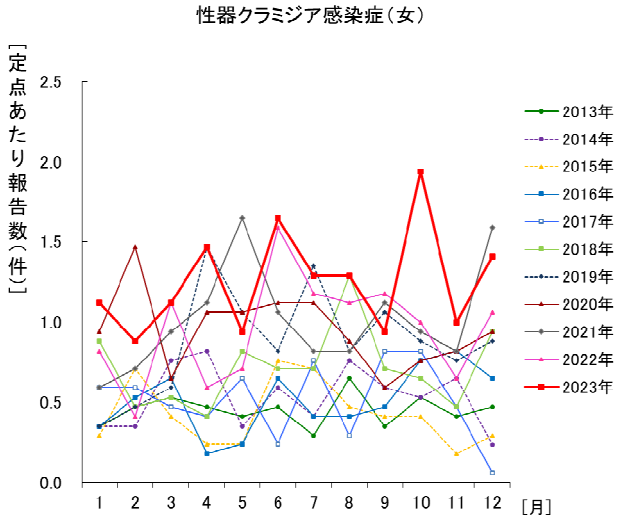
令和５(2023)年の総報告数は 518 件(男 262 件、女 256 件)でした。令和４(2022)年の 463 件（男 269 件、女 194 件）と比較すると、男性はほぼ同様、女性はかなり増加しました。性別・年齢階級別では、20 歳代は男性が 38.9%、女性が 62.9%、30 歳代は男性が 26.7%、女性が 15.2%でした。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 30.47、全国 31.78 で、全国と比較して 0.96 倍とほぼ同様の水準でした。

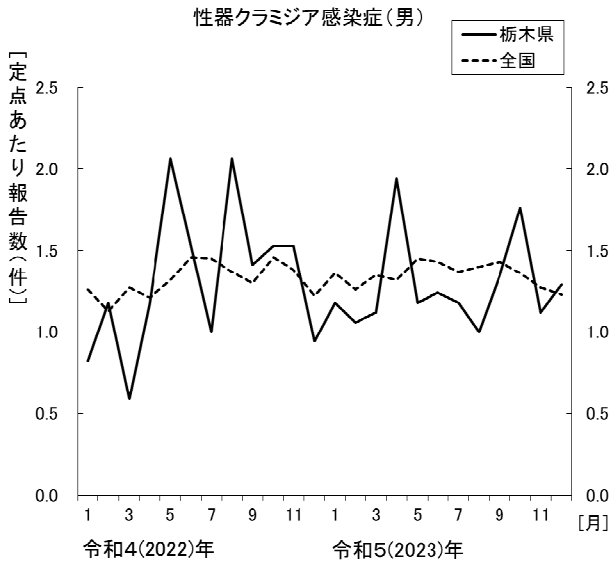
男性は栃木県 15.41、全国 16.24 で、全国と比較し 0.95 倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県 15.06、全国 15.54 で、全国と比較し 0.97 倍とほぼ同様の水準でした。

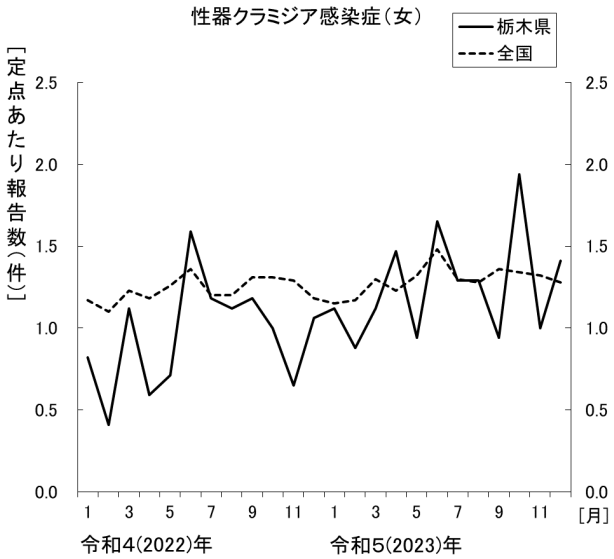
定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）





定点当たり報告数の動向(全国との比較)





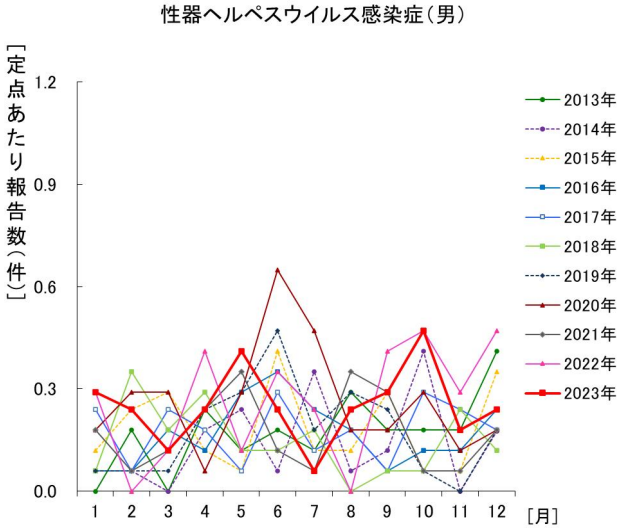
26. 性器ヘルペスウイルス感染症

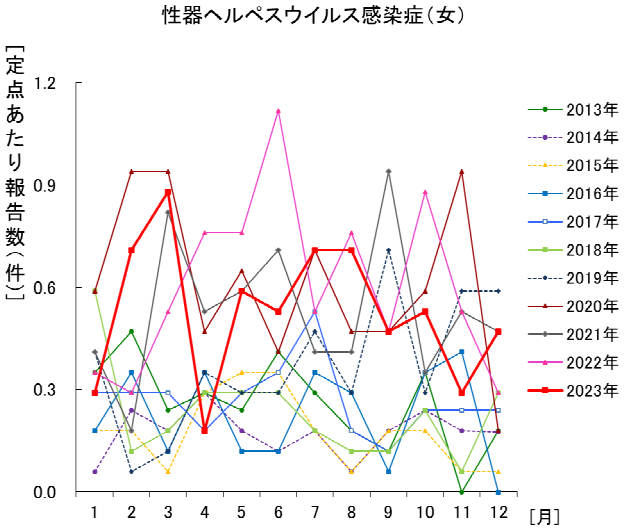
令和５(2023)年の総報告数は 159 件(男 51 件、女 108 件)でした。令和４(2022)年の 178 件（男 54 件、女 124 件）と比較すると、男性はほぼ同様、女性はやや減少しました。性別・年齢階級別では、20 歳代は男性が 15.7%、女性が 30.6%、30 歳代は男性が 25.5%、女性が 32.4%、40 歳代は男性が 35.3%、女性が 16.7%でした。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 9.35、全国 9.62 で、全国と比較して 0.97 倍とほぼ同様の水準でした。

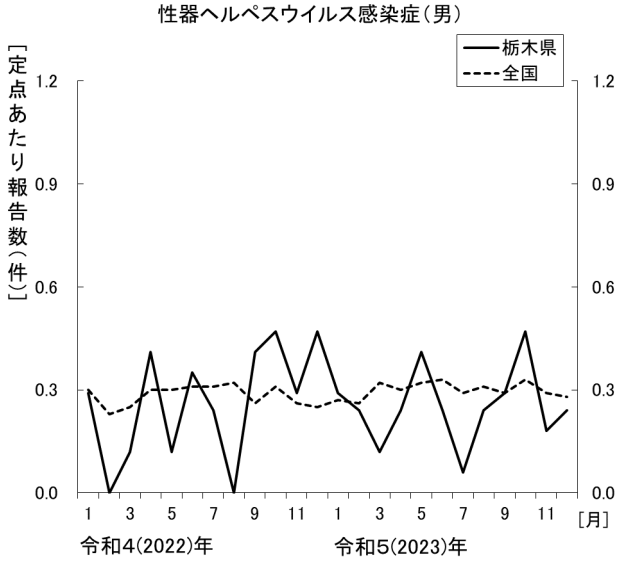
男性は栃木県 3.00、全国 3.60 で、全国と比較し 0.83 倍とやや低い水準、女性は栃木県 6.35、全国 6.03 で、全国と比較し 1.05 倍とほぼ同様の水準でした。

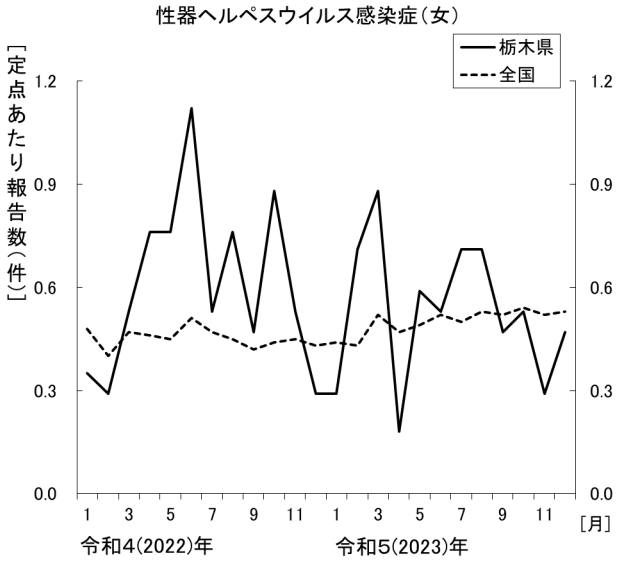
定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）





定点当たり報告数の動向（全国との比較）





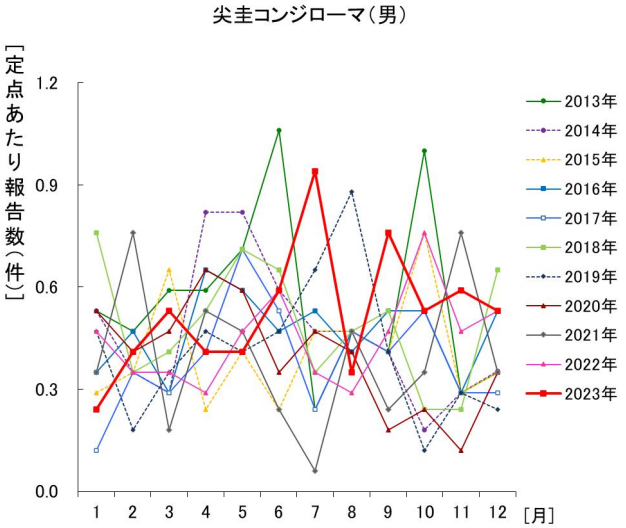
27. 尖圭コンジローマ

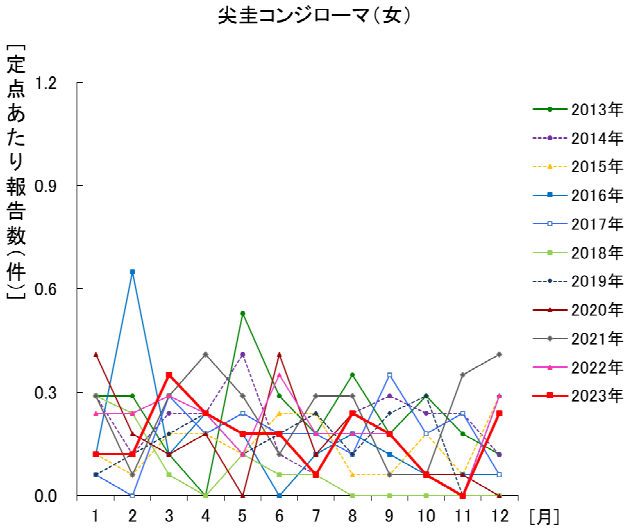
令和５(2023)年の総報告数は 140 件(男 107 件、女 33 件)でした。令和４(2022)年の 132 件（男 92 件、女 40 件）と比較すると、男性はやや増加、女性はやや減少しました。性別・年齢階級別では、20 歳代は男性が 22.4%、女性が 54.5%、30 歳代は男性が 22.4%、女性が 33.3%、40 歳代は男性が 28.0%、女性が 3.0%でした。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 8.24、全国 6.73 で、全国と比較して 1.22 倍とやや高い水準でした。

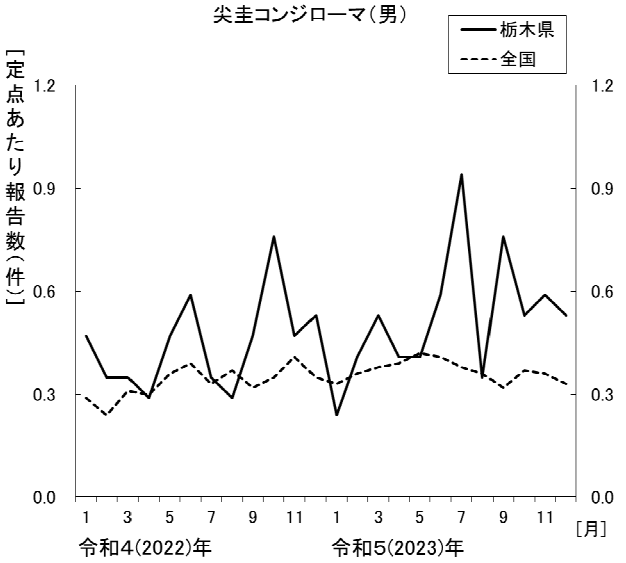
男性は栃木県 6.29、全国 4.42 で、全国と比較し 1.42 倍とかなり高い水準、女性は栃木県 1.94、全国 2.31 で、全国と比較し 0.84 倍とやや低い水準でした。

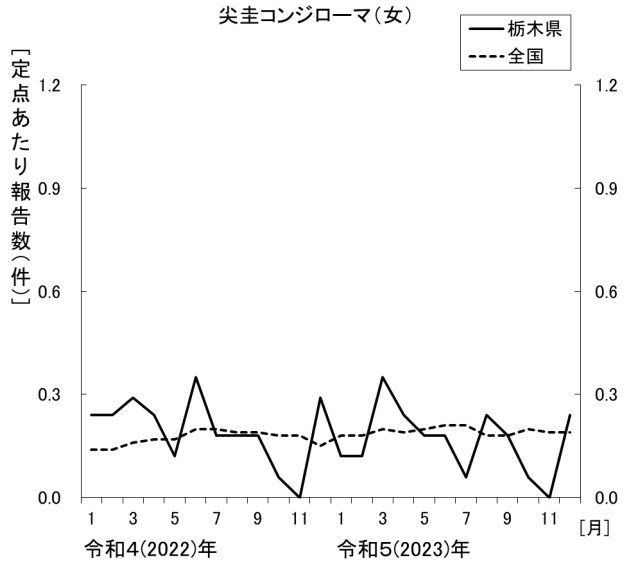
定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）





定点当たり報告数の動向(全国との比較)





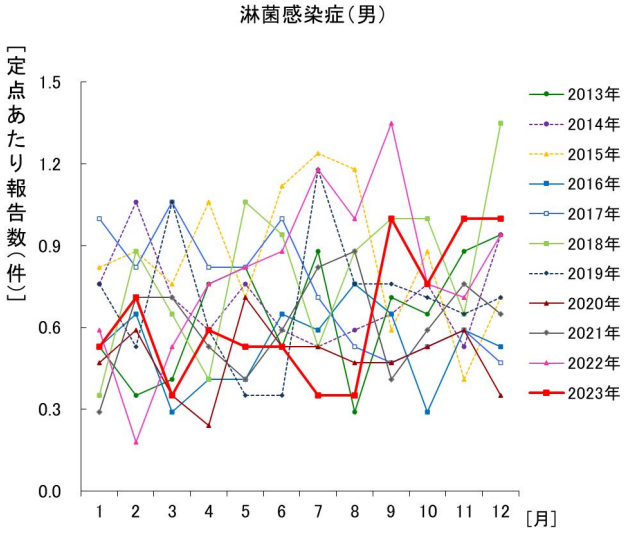
28. 淋菌感染症

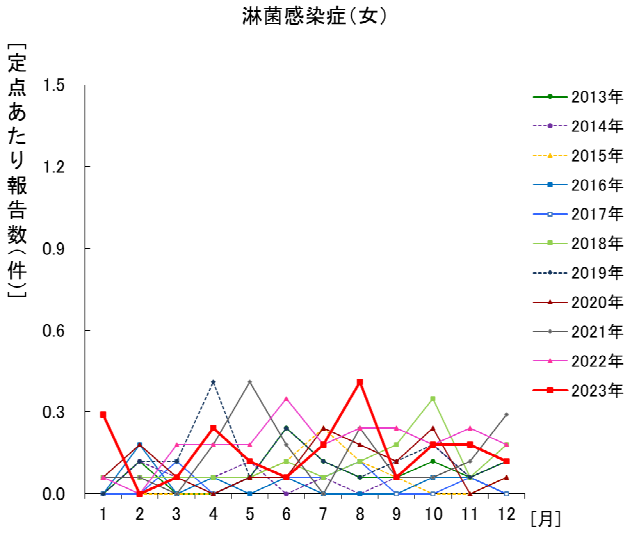
令和５(2023)年の総報告数は 163 件(男 131 件、女 32 件)でした。令和４(2022)年 の 202 件（男 165 件、女 37 件）と比較すると、男性、女性ともにやや減少しました。性別・年齢階級別では、20 歳代は男性が 29.8%、女性が 68.8%、30 歳代は男性が 26.0%、女性が 12.5%、40 歳代は男性が 28.2%、女性が 9.4%でした。

年間の定点当たり報告数の計は、栃木県 9.59、全国 9.83 で、全国と比較して 0.98 倍とほぼ同様の水準でした。

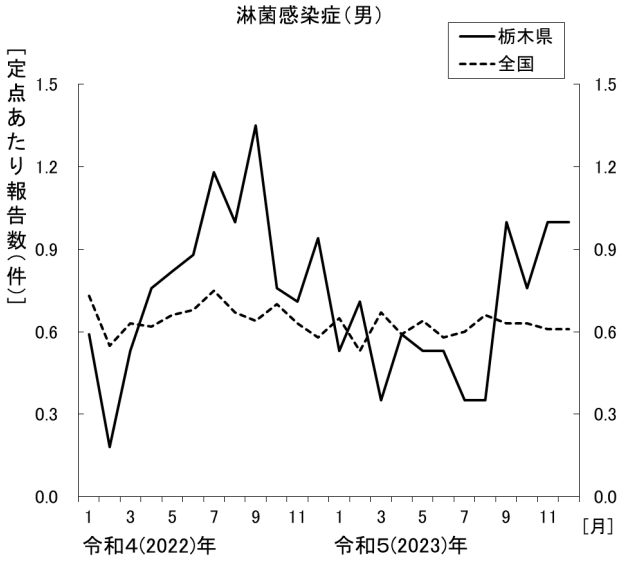
男性は栃木県 7.71、全国 7.40 で、全国と比較して 1.04 倍とほぼ同様の水準、女性は栃木県 1.88、全国 2.43 で、全国と比較して 0.77 倍とやや低い水準でした。

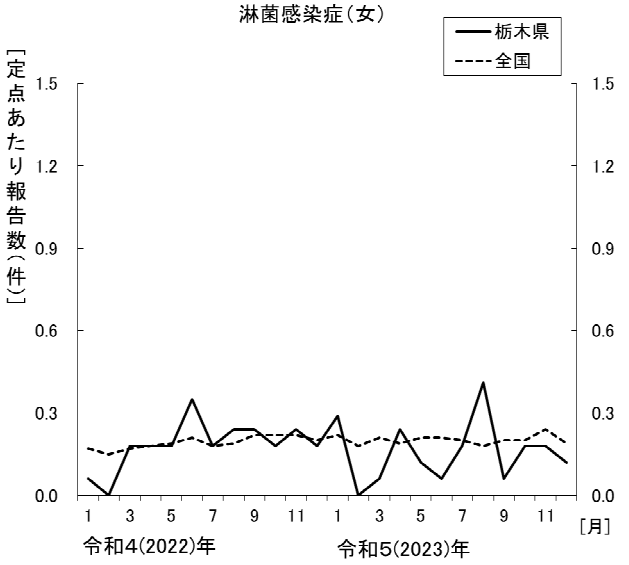
定点当たり報告数の動向（過去 10 年間との比較）





定点当たり報告数の動向（全国との比較）





＜主な本文出典＞
感染症サーベイランスシステム
・全国定点報告数
　令和５(2023)年：公開データ（年報）【2024 年 10 月 26 日現在】
　令和４(2022)年：公開データ（年報）【2023 年 10 月 28 日現在】
・栃木県定点報告数　（週報）
　令和５(2023)年：随時集計（年報）【2024 年 10 月 30 日現在】
　令和４(2022)年：随時集計（年報）【2024 年 10 月 30 日現在】
・栃木県定点報告数　（月報）
　令和５(2023)年：随時集計（年報）【2024 年 10 月 30 日現在】
　令和４(2022)年：随時集計（年報）【2024 年 10 月 30 日現在】